大阪大学国際化拠点整備事業
（グローバル 30）

外部評価報告書

2021 年 3 月

大阪大学

はじめに

2009 年に「留学生 30 万人計画」の提唱の下に始まった「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」（以下、「グローバル 30 事業」と略称。）に大阪大学は採択されました。国内の留学生数を 30 万人にする計画の目標達成年度は 2020 年に設定され、国を挙げて留学生の受け入れ体制の整備が進められ、当初目標は 2020 年を待つことなく達成されました。大阪大学においても、「グローバル 30 事業」採択直後から大学の国際化に向けた全学的な推進体制を構築し、学部英語コースを 2 コース、大学院英語コースを 2 コース設置するとともに、留学生受入れのためのサポート窓口設置等の環境整備を行い、また、近隣大学とのネットワーク構築や経済・産業界との連携によりグローバル人材育成の推進を図り、大学の国際化を図ってまいりました。

文部科学省事業としての「グローバル 30 事業」は、2013 年度で終了しましたが、本事業を契機として学内で国際化の機運が高まり、2014 年度以降も学内経費を充てるなどして継続実施しています。また 2014 年にはスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、その後、2018 年 10 月には指定国立大学法人に指定され、さらなる大学の国際化整備を続けております。

大阪大学における一連の国際化事業のひとつとして、留学生 30 万人計画の最終年度である 2020 年には、日本人学生と留学生が混住できる新たな学寮である「グローバルビレッジ津雲台」が運用を開始し、2021 年 4 月には、箕面新キャンパスが箕面船場地域に発足します。同キャンパスは、25 言語の外国語を学ぶことのできる外国語学部の新たなキャンパスであり、このキャンパスに併設して、日本人学生と留学生の混住型学寮として「グローバルビレッジ箕面船場」が開設されます。

当初の構想調書に記載した数値目標のうち、大学全体の留学生受入数、外国人教員数は目標を達成し、2013 年の事業終了後も年々その数値は増加しています。さらに、2013 年の補助金終了時に比べ、英語による授業科目数や、英語コースの数は大幅に増加し、特にダブル・ディグリーなどの共同学位プログラム数は当時わずかに 1 件だけでしたが、現在は 55 件にまで拡充しております。

今後はコロナ新時代の教育の在り方を検討する中で、オンラインを駆使したヴァーチャル留学を推進するなど、新たな国際化への取り組みを取り入れつつ、国際舞台においても未来の様々な社会課題に挑戦する力強い人材の育成を進め、様々なステークホルダーからの信頼を得て、知・人材・修学環境への経済的支援の好循環が得られる環境整備を進める計画です。

このたび、外部評価委員の皆様に、事業採択から事業終了後も含めた 10 年間の取組と実績に対する評価を行っていただき、その内容を本報告書にまとめました。ご意見をいただきました事項につきましては、今後の本学のさらなる国際化への取組にあたり、大いに参考にさせていただく所存です。

最後に、貴重な時間を割いて外部評価に参加いただき、本学のために有益なご意見とご提言を提供いただきました外部評価委員の皆様に衷心より感謝申し上げますとともに、報告書作成のために尽力いただいた関係教職員全員に厚く御礼を申し上げます。

2021 年 3 月
大阪大学国際化拠点整備事業構想責任者
理事・副学長　　田中　敏宏

目　次

1.　外部評価実施概要 ····· 1

2.　総評 ····· 5

3.　評価シート ····· 9

4.　資料編

(1) 参考資料

①　2014 年度外部評価報告書（評価項目①） ····· 15

②-1 数値目標の達成状況（評価項目②③） ····· 35

②-2 グローバルナレッジパートナー（GKP）及び ASEAN キャンパス概要（評価項目②） ··· 37

④　All in One Plan パンフレット（評価項目④） ····· 39

⑥-1 人間科学コース(HUS)紹介パンフレット（評価項目⑥） ····· 41

⑥-2 化学・生物学複合メジャーコース(CBCMP)紹介パンフレット（評価項目⑥） ····· 43

⑥-3 国際科学特別コース(IUPS) 紹介パンフレット（評価項目⑥） ····· 45

⑦　各コースの入学者・卒業者データ（評価項目⑦） ····· 47

⑨-1 カリキュラムマップ(HUS)（評価項目⑨） ····· 49

⑨-2 Key Graduate Attributes(HUS)（評価項目⑨） ····· 51

⑨-3 遠隔講義ガイドライン(HUS)（評価項目⑨） ····· 53

⑩-1 IRIS（留学生交流情報室）案内（評価項目⑩） ･････････････････････････ 55

⑩-2 留学生のためのオンライン就職対策講座（評価項目⑩） ･･････････････････ 60

⑩-3 留学生のための就職相談コーナー（評価項目⑩） ･･････････････････････ 61

⑩-4 日本語よろず相談窓口（評価項目⑩） ･･････････････････････････････ 62

⑩-5 Living in Osaka 留学生・外国人研究者のためのリビングガイド(目次)（評価項目⑩） 63

⑪　文部科学省からの補助金及び学内経費の推移（評価項目⑪） ･･････････････ 65

⑬-1 大阪大学の戦略的グローバル展開（評価項目⑬） ･･････････････････････ 67

⑬-2 グローバルビレッジ及び OU グローバルキャンパス概要（評価項目⑬）･･････ 69

(2) 補足資料

● グローバル 30 とは？（文部科学省） ･･････････････････････････････････ 71

● 「留学生 30 万人計画」骨子（文部科学省ほか） ･･････････････････････････ 73

● 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業　事後評価結果（文部科学省）77

● 拠点大学の構想の概要及び取組実績の概要（文部科学省事後評価資料）･･････ 79

１．外部評価実施概要

Ⅰ　実施の経過と目的

急速なグローバル化や世界の有力大学間の競争が激化する中、優れた留学生の獲得や戦略的な国際連携による国際競争力の強化を図るため、我が国においても2008年に「留学生30万人計画」が策定された。同計画の達成を目指し、留学生等に魅力的な水準の教育を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成が急務であるという政府方針のもと、2009年に文部科学省によって国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）（以下「グローバル30事業」）が公募されることとなった。

大阪大学は、本事業に採択されて以後、大学の国際化に向けた全学的な推進体制を構築し、学部英語コースを2コースと大学院英語コースを2コース設置するとともに、留学生や外国人研究者のビザ申請等のサポート窓口設置等の環境整備を行った。また、近隣大学とのネットワーク構築や経済・産業界との連携によりグローバル人材の育成を推進することで、大学の国際化を図ってきた。

この間、日本学術振興会のもとに設置された大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会により、2011年度に中間評価、2014年度に事後評価を受け、これらの評価においては、ともに5段階評価の上から2番目である「A」評価を受けた。

また、学内においては、2013年3月と2015年3月に外部有識者による外部評価を実施した。文部科学省補助事業としてのグローバル30事業は2013年度をもって終了したが、「留学生30万人計画」においては2020年がその目標年となっており、グローバル30事業は我が国を代表する国際化拠点となる大学の整備を通じて、「留学生30万人計画」の達成に向けた牽引役としての役割を果たすことを期待された事業である。そのため、2020年度に事業の成果を総括するための外部評価を実施し、留学生数や外国人教員数など数値目標の達成度合いを含め「国際化拠点」の実現状況につき客観的な評価を受けた上で、その結果を文部科学省に報告することとなっている。

Ⅱ　実施の概要

１．外部評価の対象となる事業

文部科学省の補助金により2009年度から2013年度までの5年間に実施された国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）とする。

２．評価項目

以下の項目に関する評価を実施した。

(1) 事業全般に関する評価

① 事業の実施体制

② 評価結果への対応

③ 構想調書に記載した数値目標の達成状況

④ 近隣大学との連携による国際化の推進及び産業界との連携による留学生支援

⑤ 外国人教員や留学生からの意見を取り入れる仕組み

⑥ 学生獲得のための戦略的な広報体制

(2) 教育プログラムに関する評価

⑦ 英語コース修了生の動向

⑧ コースの特徴ある授業

⑨ 教育の質保証

⑩ 留学生に対するサポート

(3) 事業の継続性

⑪ 補助終了後の事業の継続性

⑫ グローバル化に向けた全学的な取組

⑬ 今後の更なる国際化に向けた工程

３．評価方法

２．に掲げた①から⑬までの評価項目の取組状況と今後の展望を記載した評価シート及び５．に示した参考資料に基づく書面審査と、外部評価委員会における大学側関係者のプレゼンテーション及び質疑応答をもとに、各評価項目について委員が５段階で評価するとともに、優れていると評価できる点や改善すべきと思われる点等について意見を付した。

４．外部評価委員

大阪大学は、外部評価の実施にあたり第三者の意見を求める機関として学識経験者等から構成される委員会を設置するものとし、以下の各界有識者に外部評価委員を依頼した。

委員長	松　田　　武　氏	京都外国語大学学長
委　員	梅　谷　博　之　氏	帝人株式会社帝人グループ常務執行役員法務・知財管掌マテリアル技術本部長
委　員	吉　川　秀　隆　氏	公益財団法人大阪府国際交流財団理事長
委　員	萩　原　英　治　氏	大阪府立北野高等学校校長
委　員	ルチラ・パリハワダナ氏	京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター教授

５．参考資料一覧

(1) 前回外部評価報告書（評価項目①）

(2) 数値目標の達成状況（評価項目②③）

(3) グローバルナレッジパートナー（GKP）及びASEANキャンパス概要（評価項目②）

(4) All in One Plan パンフレット（評価項目④）

(5) 人間科学コース(HUS)紹介パンフレット（評価項目⑥）

(6) 化学・生物学複合メジャーコース(CBCMP)紹介パンフレット（評価項目⑥）
(7) 国際科学特別コース(IUPS) 紹介パンフレット（評価項目⑥）
(8) 各コースの入学者・卒業者データ（評価項目⑦）
(9) カリキュラムマップ(HUS)（評価項目⑨）
(10) Key Graduate Attributes(HUS)（評価項目⑨）
(11) 遠隔講義ガイドライン(HUS)（評価項目⑨）
(12) IRIS（留学生交流情報室）案内（評価項目⑩）
(13) 留学生のためのオンライン就職対策講座（評価項目⑩）
(14) 留学生のための就職相談コーナー（評価項目⑩）
(15) 日本語よろず相談窓口（評価項目⑩）
(16) Living in Osaka 留学生・外国人研究者のためのリビングガイド(目次)（評価項目⑩）
(17) 文部科学省からの補助金及び学内経費の推移（評価項目⑪）
(18) 大阪大学の戦略的グローバル展開（評価項目⑬）
(19) グローバルビレッジ及び OU グローバルキャンパス概要（評価項目⑬）
(20) グローバル 30 とは？（文部科学省）
(21) 「留学生 30 万人計画」骨子（文部科学省ほか）
(22) 事後評価結果（文部科学省）
(23) 拠点大学の構想の概要及び取組実績の概要（文部科学省事後評価資料）

６．外部評価委員会

日　時：2021 年 3 月 2 日（火）14:00～16:00
場　所：共創イノベーション棟会議室 5（大阪大学吹田キャンパス）
出席者：順不同
＜外部評価委員会委員＞
松　田　　武　氏　京都外国語大学学長
梅　谷　博　之　氏　帝人株式会社帝人グループ常務執行役員法務・知財管掌マテリアル技術本部長
吉　川　秀　隆　氏　公益財団法人大阪府国際交流財団理事長
萩　原　英　治　氏　大阪府立北野高等学校校長
ルチラ・パリハワダナ氏　京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター教授
＜大阪大学関係者＞
田　中　敏　宏　　理事・副学長（構想責任者）
河　原　源　太　　理事・副学長
久　保　孝　史　　教授（インターナショナルカレッジ長、化学・生物学複合メジャーコース長）
山 本 ベバリーアン　教授（人間科学コース長）
有　川　友　子　　教授（国際教育交流センター長）
藤　田　清　士　　教授（総長補佐、CAREN 幹事会メンバー）

議　事：

１．田中理事・副学長挨拶

２．出席委員、大学側出席者自己紹介

３．委員長の選出

４．大学側プレゼンテーション

５．質疑応答

６．外部評価委員による協議

７．委員長及び各委員からのコメント

概　要：

外部評価委員には、事前に評価シート及び参考資料を提供し、書面審査を依頼した。

外部評価委員会では、事業開始から現在に至るまで大阪大学が実施してきた国際化の取組や今後の展望について、スライドを使って説明を行った。

また、外部評価報告書の作成手順を確認した。

２．総評

2009 年に開始したグローバル 30 事業により得られた成果について、各種資料に基づく書面審査及び外部評価委員会における質疑応答をもとに評価を実施し事業を総括するとともに、大阪大学における今後の更なる国際化に向けた所見を述べるものである。

総合的に見て、文部科学省の補助事業の終了後も、大阪大学では教育の国際化に向けた意欲的な取組が継続されており、学生に国際性を涵養するための多くの可能性が提供されている。組織体制、取組、国際化の実現のいずれの面においても極めて高い水準が維持されていると判断できる。提供された可能性を活かし、いかに自らの未来を切り開くのかは学生自身にかかっているが、引き続き国際的な教育施策を維持、発展させ、様々な可能性に積極的に挑戦する高い志を有した人材を輩出されることを期待する。

Ⅰ　事業全般

文部科学省の補助事業の終了後 7 年が経過しようとしている現在においても、総長のリーダーシップの下、事業理念の実現のため学内経費を確保して自走化を図り、多岐にわたる国際化の取組を組織的に継続し、数値目標の達成を含む成果を収めている点は素晴らしい。

とりわけ、外国語のみで卒業できるコースの拡充、数多くのダブル・ディグリー・プログラムの新設、国際性涵養教育の正規カリキュラムの一環としての位置付け、学生・職員の英語力向上に向けた取組、外国人と日本人の学生・教職員の混住施設である「グローバルビレッジ」の創設は注目に値する。

また、外国語による授業科目が、補助事業終了時点の 484 科目から 1,466 科目と大きく増加した。授業担当教員の負担は大きかったと思われるが、留学生のみならず日本人学生にとっても大変有意義であると思われる。

産業界との連携により、住居の提供、奨学金によるサポート、日本企業でのインターンシップ等がセットになった「All in One Plan」という今後大きな効果が期待される取組がなされているが、その利用者数や実際の就職者数等の成果の状況についても検証が望まれる。

外国人教員や留学生からの意見を取り入れる仕組みについては、仕組み自体は充分に確立されているものと推察されるが、その結果が学生の自主的な活動や日本人学生との合同の取組に発展していったかどうかについても検証できればよいと思われる。学生が自らの目標を見つけて、生き生きと自主的な活動に取り組むプロセスを通して、様々な能力やスキルを習得すると考えられるからである。

Ⅱ　教育プログラム

グローバル 30 事業によって、大阪大学は、学部と大学院にそれぞれ 2 つの英語コースを開設した。大学院英語コース（国際物理特別コース、統合理学特別コース）は、補助事業終了とともに理学研究科の所管プログラムとして内在化させ、学部英語コース（化

学・生物学複合メジャーコース、人間科学コース）を引き続きインターナショナルカレッジが所管することとしている。化学・生物学複合メジャーコースは「化学と生物の融合分野で国際的に活躍できる人材を養成する」ことを目標としており、人間科学コースは「激変する現代社会及び世界に貢献できる人材を養成する」ことを目標としている。

このうち人間科学コースにおいては、志願者が大きく増加していることに加え、近年は TOEFL-iBT や国際バカロレア（IB）の極めて高いスコアを持つ者の出願が増えていることは特筆すべき点である。また、2019 年度にカリキュラム改革を行い、従前の「Global Citizenship」と「Contemporary Japan」という 2 つの Major（専攻）を、「Diversity and Inclusion」「Japan Studies」「Politics and Global Studies」という 3 つの Focus（履修モデル）に変更した。これによりカリキュラムを SDGs とリンクさせる取組を進め、大阪大学が 2018 年から実施しているユネスコチェア事業「グローバルヘルスと教育」と連携し、その研究成果をコースの教育に直接反映させることができるようにしている。

他方、大阪大学は国費外国人留学生の日本語予備教育機関である日本語日本文化教育センターを有する強みを活かし、一定程度の日本語能力を持つ私費外国人留学生を対象に、学士課程の入学前に 6 か月間の日本語予備教育を行うプログラムを 2016 年度入学者から開始している。

この実績をもとに、入学試験と低年次の教養教育を英語で実施する一方、入学前 6 か月間の集中的な予備教育と入学後の継続した日本語教育によって日本語能力を引き上げ、2 年次後半以降の専門教育を日本人学生と共修させる「国際科学特別プログラム」を、化学･生物学複合メジャーコースに代わって 2021 年度入学者から新たに開始する。イノベーションを創出する上でも人材の多様性は重要な要素の一つであり、多様なバックグラウンドを持つ学生が日常的に交流し切磋琢磨する環境を提供することが必要である。このプログラムは、留学生と日本人学生が日本語を介して「混ざり合う」ことをねらいとする点で日本語教育に強みを有する大阪大学ならではの取組であり、日本語を習得することで、優秀な外国人の我が国への定着も期待できる。

卒業生の活躍を把握することにより、在学中のどのような教育が卒業後の何に役立ったのか、大学として検証することが重要である。構想中の DX in Education を活用した Student Life-Cycle Management を構築し、入学前から卒業後までのキャリア段階に応じて個々の学生に最適化された学習支援が望まれる。

また、卒業が遅れたり卒業できなかった学生はいたか、その要因は何だったのか、どのように対応しているのかを検証することも重要と思われる。

社会に通用する高い能力を有した人材の育成には豊かな学問環境が必要であると考えられるが、英語コースの授業担当について、現体制では一部の教員に負担がかかっているような印象がある。

教育の質保証に関して、授業アンケートの検証や FD 活動などの多くの取組がなされている。今後は、ダブル・ディグリー・プログラムの質保障についても、どのようになされているか共有できればよいと思われる。

留学生に対するサポートについては、国際教育交流センターの IRIS やサポートオフィスなどの手厚いサポート体制が構築・運用されている。

COVID-19 の中、大学も非常に苦労してきたことがよく理解できた。ワクチン配布もあり、いずれ収束に向かっていくものと見込まれるが、足元では今もなおウィズコロナ、その先はニューノーマルの中で、どう対応していくのかは引き続き課題である。今回の

経験を通じて、多くのことがリモートでも対応できるとわかった反面、対面でなければできないことやリモートでは効果が低いことも明確になってきた。この経験を踏まえ、ニューノーマルの世界ではより効率的に進められるところは効率的に進め、真に対面で、もしくは人でなければできないことに注力することが重要ではないかと思われる。

Ⅲ　事業の継続性

大阪大学は、2009年のグローバル30事業の採択を契機に、英語コースやサポートオフィスの設置、国際教育交流センターの改組・拡充など、大学の国際化に取り組み、グローバル30事業に続くスーパーグローバル大学創成支援事業では、大学の原点である「適塾」の精神を受け継ぐGlobal University「世界適塾」の実現を掲げた。その後、現在の西尾総長の就任に伴い、新たに「OUビジョン2021」を策定し、「Openness（開放性)」をキーワードとした大学と社会の「共創（Co-Creation)」という概念に構想を発展させ、総長のリーダーシップの下、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」を目指すことを示した。

前述のとおり、文部科学省の補助事業終了後も、学内経費を確保して組織的な取組を継続している。例えば、学生・職員の英語力向上に向けた取組を継続した結果、TOEFL-iBT 79（ITP 550）相当以上のスコアを持つ学生は2013年の1,540人から4,343人に、TOEIC 700点相当以上のスコアを持つ職員は2013年度176人から286人に増加している。学生については、2018年に「マルチリンガル教育センター」を設置し、語学教育の刷新に取り組んだ成果が表れ始めているものと思われるが、大阪府のトップクラスの高等学校では、入学時点で英検2級以上の資格を持つ生徒が相当数を占めることから、英語4技能（読む・書く・聞く・話す）をバランスよく伸ばす授業を目指しており、高大接続の観点からも、ディスカッションやプレゼンテーション等の実用的な英語の運用能力を伸ばす教育、機会を提供することも必要と思われる。

日本人学生の海外派遣促進や日本人学生と留学生の共修の取組、留学生の多様性の確保は今後更なる発展が期待される。新型コロナウイルス感染症拡大によって学生の留学に対する熱が冷め、内向き傾向が再来しないような施策が望まれる。また、一般論としては、国際分野に携わる職員が専門性や知識を蓄積し、専門職として職務を遂行できる体制が必要であるように思われる。

グローバル30事業は大阪大学の国際化に大きく寄与し、「内なる国際化」は確実に進展した。一方、英語コースに在籍する留学生は日本語ができないことから日本人学生とうまく交流できず、ともすれば孤立する傾向にあった点は否定できない。今後は、国際科学特別プログラム等を効果的に展開し、留学生と日本人学生が「混ざり合い」、大学の全構成員が当事者意識をもって国際化を推進することが期待される。

グローバル人材育成の本質は、人類や社会に貢献する人材の育成といえる。「大阪大学の教育改革の全体像」で示した国際性涵養教育、高度教養教育、「知の探求」「知と知の融合」「社会と知の統合」といったビジョンを教職員のみならず、広く学生やステークホルダーにも共有するとともに、イノベーション創出の重要な要素となるDiversity & Inclusionを大阪大学の活動のコアに据え、世の中を動かすハブになるというような構想を進めてはどうかと考える。

グローバル化とは、人と人とのコミュニケーション、コミュニティのセンスを養うことである。これまでの事業の実績をもとに、これからは「阪大グローバルコミュニティ」を目指し、理事、教職員、留学生、日本人学生全員が、この事業を通して Global Citizen になる、というコモナリティやセンスを醸成する。そして、地球という船の、また、阪大コミュニティのメンバーであるという意識を持って卒業した学生たちがどういうキャリアを辿っているか、関係者の努力がどのように花開いたか、数十年スパンの長期的な視点で検証いただくことを期待する。

大阪大学国際化拠点整備事業（グローバル 30）外部評価委員会
委員長　　松田　武

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
事業全般	①事業の実施体制	事業実施にあたり、組織的な実施体制を構築し、かつ、外部からの評価・意見を取り入れる仕組みを構築したか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪事業実施体制≫ ・総長のリーダーシップのもと、教育担当理事・副学長が事業の構想責任者となり、組織的に事業を実施してきた。実施体制としては、総長を議長とし各部局長からなる大学国際化ネットワーク推進協議会が事業の全学的な方針を審議し、その直下の大学国際化ネットワーク企画調整委員会が事業の企画立案や運営に関する個別具体的事項を審議することとし、組織的な実施体制を構築した。 ・また、学部英語コースにおける英語による授業科目の開講と、教務・入試・広報等の事務処理を担当するインターナショナルカレッジを2010年8月に設置し、カレッジ長（兼任教員）、外国人を含むコース担当教員（専任教員）に加え、国際部の係長級職員を専任として配置している。 ≪外部からの評価・意見を取り入れる仕組み≫ ・外部有識者5名から構成される外部評価委員会を中間評価年度（2013年3月）と事後評価年度（2015年3月）の2回開催し、事業に対する客観的な評価と助言を受けた。 【今後の展望】 ≪事業実施体制≫ ・補助金事業終了後（2014年度～）も、教育担当理事・副学長を議長とする同企画調整委員会において、引き続き事業予算の配分や奨学金支給要項について審議するとともに、インターナショナルカレッジが2つの学部英語コースの運営を統括する。 ≪外部からの評価・意見を取り入れる仕組み≫ ・2020年度に実施する第3回外部評価の後も、国立大学法人評価や大学機関別認証評価等において、引き続き第3者による評価を受けることとなっている。
	②評価結果への対応	採択時の審査結果やその後の各評価結果に対して的確に対処したか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ・文部科学省の事後評価(2014年度)及び前回の外部評価（2014年度）での主な指摘事項について、以下のように対処している。 ≪外国人教員数・比率の数値目標≫ ・2014年度の事後評価で目標を下回っていると指摘を受けた外国人教員数・比率については、国際ジョイントラボ（国際共同研究促進プログラム）、外国人教員雇用支援事業などの人件費支援制度や、海外研究機関と本学との間におけるクロス・アポイントメント制度の積極的な活用によって外国人教員の雇用を促進し、2020年度の最終目標値210 名/7.2%に対し実績値は344 名/9.6%となり、目標を達成した。 ≪英語コース・英語科目の充実≫ ・外国語のみで卒業できるコースの数を、学部・大学院合わせて補助金事業終了時（2013年度）の14 コースから2020年度は45 コースと大幅に拡充した。外国語による授業科目についても、2013年度484 科目から2019年度は1,466 科目と大幅に拡充した。 ・また、理学研究科及び工学研究科を中心として、現在46 のダブル・ディグリー・プログラムを開設している。 ≪日本人学生の国際性涵養教育≫ ・2018年4 月に「マルチリンガル教育センター」を設置し、学部1・2 年次対象のTOEFL-ITP とe-ラーニングを結びつけた授業と、アクティブラーニング等による少人数の対面授業を2本柱とする英語教育の新たなカリキュラムを2019年度から開始した。また、語学教育の刷新にとどまらず、2019年度に全学的に実施した学士課程・大学院課程のカリキュラム改革において、言語教育を含む「高度国際性涵養教育科目」を学部高年次及び大学院学生に必修化し、在学中一貫して国際性の涵養を図るカリキュラム体系とした。 ・文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」（以下、SGU事業）では、本学学生の英語力の基準をTOEFL-iBT79（ITP550）に設定している。学部1・2年次ではTOEFL-ITP 試験の結果を成績評価に反映させており、更に、基準を満たす学生割合の目標値を部局評価の指標に組み込むなど、学生の英語力の把握・向上に努めた結果、基準を満たす学生数は、2013年度の1,540名から2020年4月現在4,343名と着実に増加している。 ≪世界大学ランキングへの対応≫ ・QS（大阪大学の順位：2014年55位/2020年72位）やTimes Higher Education（大阪大学の順位：2014年144位/2020年351～400位）によるランキングは、集計方法が頻繁に変更され経年で見た場合に順位の連続性がないばかりか、論文数のカウント方法にも問題があり、集計方法の違いによってスコアが大きく変わるため、これらランキングの順位自体を目標とすることは適切でないと考えるが、例えば、共著論文をより実態に近い方法でカウントするNature Indexでは、研究力が非常に高く評価され、本学のランキングは上昇している（2019年67位/2020年63位）。研究面では、本学が2013年度から実施している「国際共同研究促進プログラム」により、国際共著論文数の比率は、26.1%（2014年）から右肩上がりに推移し、30.9%（2019年）に増加している。なお、Teachingの指標では、2020年のTHE世界ランキングにおいても本学は97位に位置している。 【今後の展望】 ≪外国人教員数・比率の数値目標≫ ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による入国制限措置等のため、外国人教員・研究者が入国困難な状況が続いているが、一定の条件を満たした場合に海外での在宅勤務を認めるなどの施策を講じつつ、外国人教員数・比率の維持に努める。なお、2020 年10月には、教職員・学生の混住施設であるグローバルビレッジがオープンし、外国人が来日する障壁の1つである住環境が整うことにより、それらを積極的に活用しつつ、将来的に更なる外国人教員数・比率の増加を目指す。 ≪英語コース・英語科目の充実≫ ・「化学・生物複合メジャーコース」については、2019年10 月を最後に学生募集を停止し、2021年4 月からは、新たに理学部「国際科学特別コース」として再スタートすることとなった。この新しいコースは、入学前6ヶ月間の予備教育を含め、本学が持つ豊富な日本語予備教育のリソースに基づく高度な日本語教育を提供することにより、学部前半は主に英語による教養科目を受講するが、学部後半は日本語による専門科目を受講して、学位を取得するというものである。 ・また、大学院レベルの英語コース並びにダブル・ディグリー・プログラムの開設を全研究科で引き続き進めていくことにより、英語による授業科目を更に拡充する。

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
事業全般（続き）	②評価結果への対応（続き）	採択時の審査結果やその後の各評価結果に対して的確に対処したか。（続き）							≪日本人学生の国際性涵養教育≫ ・2019年度に学部1・2 年次に対して実施したTOEFL -ITP においては、目標の550 点にあと一歩及ばない500 点以上の学生は2,297 名存在しており、これらの学生の語学力を目標値に到達させることを念頭に、第4期中期目標期間（2022年度～2027年度）においては、学生の語学力向上を最重要課題の一つとして位置付け、2023年度には全学生の25%がTOEFL-ITP550点以上相当を満たすことを目指す。 ・目標に到達しない学生には、2020 年4 月豊中キャンパスに開設した「OUマルチリンガルプラザ」や「Academic English Support Desk」等によるサポートの下、プログラム化されたe-ラーニングによる学習を継続させる。また、海外の協定校と相互にオンライン科目を開放し、自国にいながら海外大学の科目履修ができる「ヴァーチャル留学」の制度を構築し、2021年4月から開始する予定である。 ≪世界大学ランキングへの対応≫ ・論文スコアの向上につながる研究力強化のための施策を継続しつつ、本学と理念を共有する戦略的パートナー大学を「グローバルナレッジパートナー」（GKP）と位置付け、卓越した研究成果の創出を通じて地球規模課題の解決に貢献する。また、ASEAN地域の質の高い成長を実現する高度グローバル人材の育成を目的として、タイ、インドネシア、ベトナム、ブルネイに設置した「大阪大学ASEANキャンパス」等の取組を推進する。これらの取組を通じ、世界でのプレゼンスの向上を目指す。
	③構想調書に記載した数値目標の達成状況	申請時の構想調書に記載した、留学生受入れ数、外国人教員比率など設定した数値目標は達成したか。また、未達成の項目についての今後の見通しはどうか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪留学生数・比率≫ ・2020年度の最終目標値：3,000名／11.4%に対し、実績値は3,901名／16.0%となった。 ≪外国人教員数・比率≫ ・2020年度の最終目標値：210 名／7.2%に対し、実績値は344 名／9.6%となった。 ≪大学間交流協定に基づく交換留学数≫ ・2020年度の最終目標値：派遣640名／受入970名に対し、実績値は派遣591名／受入720名となった。 【今後の展望】 ≪留学生数・比率≫ ・短期留学生受入プログラムの一部をオンラインのみで実施するほか、ASEANキャンパスで実施する教育（遠隔講義を含む）と大阪大学での実習科目で構成するOsaka University International Certificate Program（OUICP）を新設し、5つのコースに65名の留学生と本学学生が参加するなど、コロナ新時代を見据えた取組を展開している。また、対面授業をオンラインで同時配信する遠隔講義システムを全学に展開するため、各学部・研究科に機器等整備のための経費を支援した。 ≪外国人教員数・比率≫ ・②に記載のとおり。 ≪大学間交流協定に基づく交換留学数≫ ・学事暦を4学期制に変更するなどの取組の結果、交換留学者数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響下で国境をまたぐ移動が制限され目標達成に至らなかった。コロナ禍においても国際的な学生交流を停滞させないため、協定校とオンラインで相互に提供する授業科目を履修するヴァーチャル交換留学や、コロナ終息後を見据えたハイブリッド型プログラムなど、これまでとは異なる形態を含めた取組により、引き続き交換留学者数の増加を図る。
	④近隣大学との連携による国際化の推進及び産業界との連携による留学生支援	近隣の大学とのネットワークの形成による諸活動により国際化が推進されたか。また、産業界との連携により留学生支援に効果はあったか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪近隣大学とのネットワーク形成≫ ・近隣大学と国際化推進に向けた連携を図るため、2011年7月に神戸大学、関西大学、関西学院大学と阪神地区大学国際化推進ネットワーク（略称：阪神ネット）を結成し、留学フェアへの合同参加や留学生対象企業見学会などの取組を実施してきた。補助金事業終了後も、神戸大学を除く3大学との間で阪神ネットを通じた連携を維持しており、2019年度は「学生の海外派遣に係る危機事象及びメンタルヘルス等への対応」をテーマに、第9回目となるStaff Developmentを実施した。 ≪産業界との連携≫ ・文部科学省の委託事業「留学生就職促進プログラム」及び「関経連グローバル人材活用運営協議会」に参画し、企業との連携により、マッチング支援、就職支援講座、業界セミナーなどを実施した。 ・本学独自の取組の1つである「All In One Plan」を実施し、入学時の住居確保、企業の寄附による奨学金支給での修学支援、支援企業との交流による就職支援まで一貫してサポートしている。参加留学生からは、日本の就職活動について理解できたなど好評であり効果があったと考えられる。 ・工学研究科では、コンソーシアム企業と協力して「高度アジア人材育成プログラム」を実施し、ものづくりの産業競争力強化と企業のグローバル化に貢献する留学生の教育を行ってきた。ものづくり論・On the Job Education（OJE）・日本企業でのインターシップ・ビジネス日本語などの実践的教育を通して、アジアに拠点を置いたものづくりを展開する人材を育成してきた。 【今後の展望】 ≪近隣大学とのネットワーク形成≫ ・2020年3月末に期間満了を迎えた連携協定をさらに3年間更新し、8月にはオンラインミーティングにより新型コロナウイルスへの対応等について情報交換を行った。コロナ禍で対面での交流ができない状況が続いているが、オンラインを活用しながら引き続き連携を図っていく予定である。 ≪産業界との連携≫ ・引き続き、留学生就職促進プログラム及び関経連グローバル人材活用運営協議会に参画し、コロナ禍の中、オンラインを利用した就職支援講座やインターンシップの実施を通じ、留学生と企業との交流、留学生の日本企業に対する理解を深める事業を実施していくことに加え、企業に対しては、留学生を採用する企業の増加と、採用後の活躍を後押しする。 ・All in One Planについても、引き続き企業からの寄附により留学生に対し奨学金を支給するとともに、留学生が支援企業へ就職できるキャリアパスを提示できるよう取り組んでいく。 ・留学生の増加や日本企業が独自に留学生採用のためのチャンネルを展開してきているため、工学研究科では、今後留学生専門のリクルーティング会社と協力し、幅広い産業に就職できる支援体制を構築してゆく予定である。

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
事業全般（続き）	⑤外国人教員や留学生からの意見を取り入れる仕組み	本事業に関わる外国人教員や留学生からの意見を取り入れる工夫をしているか。また、その結果どのような効果が得られたか。	5	5	5	5	4	25/24	【取組状況】 ≪外国人教員からの意見を取り入れる工夫≫ ・両英語コースでは、コース長が委員長を務める教員ミーティングを定期的に開催し、意見交換を行っている。また、教員のみならず、事務職員も参加するミーティングも行っている。これらのミーティングは、立場に関わらず要望や意見を自由に言うことができる場であり、運営に活かす仕組みが整備されている。毎学期初めには非常勤講師の意見を聞く場を設けている。 ≪留学生からの意見を取り入れる工夫≫ ・ホームルーム制度、授業アンケート、更にStudent Council(学生委員会)を通して意見を取り入れている。学生の声に常に耳を傾け、柔軟に対応できるようにしている。ホームルームで寄せられる学生の声、学生からのアンケート結果や学期初めに行う担当教員による面談の結果を取り入れるほか、教員に直接寄せられた学生からの要望を教務委員会で取り上げる等の取り組みが実施されている。これらの取り組みによってカリキュラム改革をはじめ、授業の質の向上、学生指導等において多くの面で改革・改善を達成してきた。 【今後の展望】 ・現在の取り組みを維持しつつ、テーマに沿って各学年から2名程度の学生が参加するグループを作り、より具体的なコースの改善案を引き出すなど、新たな試みも行う。また、化学・複合生物学メジャーコースは、2019年10月入学を最後に募集を停止したが、これまでの取組を生かしながら、新しくできるコース（国際科学特別コース）においても、教員、学生双方の意見を取り入れながら、プログラムの発展、向上に努めていく。
	⑥学生獲得のための戦略的な広報体制	留学フェア参加や現地高校訪問等に加え、学生獲得にあたり、海外拠点の活用やウェブサイトの充実を図るなど戦略的に活動の効率化を図ったか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪全学的取組≫ ・公式ウェブサイトの多言語化（日・英・中・韓）に加え、4 つの海外拠点（北米、欧州、ASEAN、東アジア）のウェブサイトやSNS上で、イベント告知などの情報発信を行っている。 ・本学が世界レベルでの強みを有する3 つの重点領域「生命医科学融合フロンティア研究」、「共生知能システム研究」及び「量子情報・量子生命研究」のPR動画を2019年度に制作し、3領域のダイジェスト版動画とともに公式ウェブサイトや有力メディア（Nature, Science, Times Higher Education, QS）を通じて世界中に配信した。 ≪インターナショナルカレッジ≫ ・北米、東南アジア、中国、欧州にある本学の海外拠点を活用して、留学生獲得に向けた現地の有力大学・高校訪問及び現地で開催される留学フェア等へ参加するとともに、入試面接の支援拠点としても活用している。 ・入試面接やコースの教員が海外出張する際、優秀な学生の出身校等を訪問して広報している。 ・両英語コース個別にウェブサイトを設け、コースの動画を発信し学生がイメージし易い工夫をするなどコース独自の留学情報を提供している。 【今後の展望】 ≪全学的取組≫ ・新型コロナウイルスの影響により現地での留学生リクルートが不可能な状況が続いている中、東アジア拠点及びASEAN拠点が中心となり、コロナ新時代におけるオンライン留学説明会を中国、モンゴル、インドネシア、タイ、ベトナム、中央アジア等の学生を対象に実施しており（2020年度は11月末時点で32回・延べ21,541名参加）、引き続き優秀な留学生獲得のための効率的なプロモーション活動を継続する。 ≪インターナショナルカレッジ≫ ・コロナ禍の状況で、現地を訪問する機会は減少しているが、今後はオンラインによる留学フェアへの参加等の機会を増やすことで、より効果的な広報手段について模索していくとともに、公式ウェブサイトだけでなく、instagramやtwitterをより活用する。また、卒業生による同窓会ネットワークを整備し、広報にも活用していく予定である。
教育プログラム	⑦英語コース修了生の動向	コース修了生のキャリアパスはどうなっているか。また、進学・就職の支援体制はどうなっているか。	5	5	4	5	4	25/23	【取組状況】 ・人間科学コースでは、毎年、大学院進学と企業への就職は半々で、やや進学が多い傾向にある。進学先は大学院人間科学研究科はじめ、国内では東大、京大、また国外ではオックスフォード大学、パリ政治学院などである。レベルの高いカリキュラムと各教員の手厚い指導が国内外の名門大学の大学院に進学できる能力を育成してきた。大学院修了後の就職先は、JAL、JICA、外務省などであるが、就職した学生も楽天からGoogleの管理職へなど、2、3年で転職しキャリアアップする例が多い。 ・化学・生物学複合メジャーコースでは、2014年3月から3年半で卒業できる早期卒業生を出しており、そのほとんどが進学している。 ・就職支援としては、学生支援室や国際教育交流センターによる支援体制が整っており、国際教育交流センターでも留学生を対象に実施する就職対策講座を毎年開催している。また、豊中、箕面、吹田の各キャンパスで週1回就職相談日を設けており、主にエントリーシートや履歴書の書き方等を指導している。更に、両英語コースでは、進学希望者には指導教員が手厚いアドバイスを行っている。 【今後の展望】 ・卒業後の進路として、大学院進学と企業への就職が想定されるが、前者については、学内の大学院との密な連携を中心として、在学中から大学院教育を実感させ、更には卒業研究やゼミを通して、最先端の研究を肌で感じる機会を与えることで多様なキャリアパスを準備する。在学中から大学院に所属する多様な学問分野の教授陣からのアドバイスを得ることで、海外の大学院進学を含め、自分の志向する学問分野を決めることができる。 ・一方で企業への就職については、進路指導の一環としてサポートするとともに、国際教育交流センターの協力を得て、履歴書の書き方、面接の受け方、就職相談などの形で就職活動を支援する。 ・また、同窓会を設立して、卒業生の状況を常に把握することで、キャリアパス等へのフォローアップ体制を築き上げる。大阪大学大学院の修了生を中心とした世界各地の大阪大学同窓会や大阪大学の海外拠点と連携することで、グローバルなネットワークを構築し、これを活用した情報交換や学術交流も活発化させ、適切なフォローアップを図る。

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
教育プログラム（続き）	⑧コースの特徴ある授業	海外から来ている学生に対し、魅力ある授業を展開する上で、何か工夫をされているか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪人間科学コース≫ ・文理融合、分野横断的かつ多様な学問分野に触れ、現代社会が直面する諸問題の解決に取り組む科目を幅広く履修できる。授業では文献等資料を正しく読む力（＝input）、授業でディスカッションによって考えて発見し（＝throughput）、まとめてプレゼンテーションしたりレポートを執筆する力（＝output）を育成する。緻密なカリキュラム構成によって順番に講義を履修していけば能力を積み上げていけるようにデザインされている。 ≪化学・生物学複合メジャーコース≫ ・1年次に数学・物理学・化学・生物学の専門基礎科目を提供し基礎実験を実施し、2年次以降に化学・生物学の専門科目を提供している。 ・3年次に研究室に配属し、日本人学生との交流を図っている。 ・2年次、3年次において、ノーベル賞受賞級の研究者によるオナーセミナーを開催している。 ・成績優秀者には、3年半で学部課程を修了できる早期卒業の制度を設けている。 【今後の展望】 ≪人間科学コース≫ ・スーパーグローバルハイスクール卒業者など、英語コースの授業の履修に十分な英語力を有する日本人学生が人間科学部にも増えている。各教員が工夫して授業そのものの高い質を維持するのはもちろん、更に日本人学生と英語コース生がともに履修できる卒業要件科目を増やすなどして相乗効果を狙う。 ≪化学・生物学複合メジャーコース≫ ・2019年10月入学を最後に募集を停止したが、これまでの取組を生かしながら、新しく開設する国際科学特別コースにおいて、文理融合力を身に付けさせるカリキュラムを1年時に集中して実施することで、将来自立してグローバルに活躍できる人材養成を図る。また、幅広い知識を身に付けさせる国際教養科目にも力を入れることで、将来はグローバルリーダーとして活躍できる学生の「質」を修了時に保証でき、他大学の規範となる人材育成プログラムを確立する。特に本プログラムで求める専門力と異分野融合力の「質」の担保にも重点を置く。
	⑨教育の質保証	教育の質の高さを維持することが海外の大学との競争では必須となるが、独自の取り組みはどのようにしているか。また、「教育の質保証ハンドブック」が実際に活用され質の維持が厳密に行われているか検証できているか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ・コアミーティング、各科目の成績評価を同じ基準で行い質を保証するためのモデレーションミーティング、非常勤講師ミーティング、授業評価アンケートの共有などを通して、教員が担当科目のみではなく、プログラム全体を常に考え、学習成果やプログラム修了者の到達目標を意識する仕組みを作り、教育の質を維持・向上してきた。特に非常勤講師や、はじめてコースの科目を担当する教員には「教育の質保証ハンドブック」を活用してFDを行っている。2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全学的な遠隔授業への対応が必要になった際は、諸外国大学のグッドプラクティスを調べて共有し、ガイドラインを作成するなどして質の高い遠隔授業を提供できるようにした。なお、授業評価は各学期の中間時及び終了時にアンケート形式で実施しており、各学期の終了時に評価を行っている。 【今後の展望】 ・カリキュラムが当初の意図を十全に果たすには、意欲と能力のある優秀な教員による指導体制の整備も必要である。本プログラムを担う教員の多くは国際公募による厳しい競争的環境で採用されており、さらに採用後も「大学のグローバル化に対応したFD支援事業」による資質向上に多大の努力を傾注してきた。現状の教育の質を維持する取り組みを続けるとともに、遠隔と対面のハイブリッド方式などコロナ新時代におけるより新たな優れた教育モデルの開発を目指す。
	⑩留学生に対するサポート	留学生に対する生活面での支援、経済的支援、就学に対する支援や就職支援について充実した取組を実施したか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ≪国際教育交流センター≫ ・全学の留学生のQOL向上と孤立化を予防するために、3キャンパスの国際教育交流センターIRIS（留学生交流情報室）をベースとした学生間の交流や地域との交流活動を積極的に実施している。また留学生関係の相談対応や各種支援については学内関係部署等と緊密な連携協力体制のもとに行っている。（参考：2019年度　IRIS（留学生交流情報室）　利用者数：28,195名、相談対応件数：13,825名） ・「留学生のための就職対策講座」を毎年秋冬学期に8回シリーズで開催し、自己分析及び面接練習、元留学生や内定者による体験談など、留学生が就職活動を行う上で参考となる取り組みを行っている。2019年度参加者数は延べ182名であった。このほか留学生のための就職相談コーナーをメールや対面で行っている。 ・また、OUマルチリンガルプラザと共同で、留学生対象に専門家による日本語のレポート作成やプレゼン資料のチェックなどの相談窓口を設けている。 ≪インターナショナルカレッジ≫ ・生活面では、生活する上で困らないよう英語コース担当の事務職員がきめ細かくサポートを行っている。また国際交流室、留学生相談室、サポートオフィス等を活用して、ビザ更新や生活、学業上の相談を受けるほか、各種の国際交流イベントなどを企画・実施している。就職希望者には学生支援室が相談に対応し、インターンシップ等の紹介も行っている。さらに学生委員会の協力のもと、各委員が新入生のメンターとなり新入生が不安を感じることなく日本での学生生活をスタートできるよう、入学前から支える仕組みを構築した。 ・経済的支援については、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、この制度を活用しながら、両英語コース4名ずつ計8名の国費外国人留学生に奨学金を支給している。この他にも、大阪大学奨学金等の奨学金をを有効に活用し、支援に努めている。 ・就学に対する支援及び就職支援については、学内外の関係組織と連携しながら、留学生対象のキャリア支援を積極的に行っている。

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
教育プログラム（続き）	⑩留学生に対するサポート（続き）	留学生に対する生活面での支援、経済的支援、就学に対する支援や就職支援について充実した取組を実施したか。（続き）							【今後の展望】 ≪国際教育交流センター≫ ・今後についても国際教育交流センターIRIS（留学生交流情報室）を核とした各種相談対応は勿論のこと、各種交流支援活動を積極的に行い、留学生が勉学や研究を含め充実した留学生活を送ることができるように多面的に支援する。更には留学生の次のキャリアにつながる各種就職支援を行う。 ・日本で就職を希望する留学生が増える中、留学生の立場から参考となる取り組みを継続して実施する。またキャリアセンターをはじめ学内就職関係部署はもとより、留学生採用を希望する企業等との連携を深めることを通して、更に積極的に留学生支援を進めていく。 ≪インターナショナルカレッジ≫ ・現在の充実した支援体制を維持しつつ、今後は更に学生委員会の意見を取り入れ、よりニーズに合った支援策を提供していく。具体的には、学部独自の留学生相談室を活用して、相談室担当職員が生活に関することなど各種相談に応じることができるように、またアカデミックな相談など教員による対応が必要となるケースもあるが、留学生担当教員を配置することで適切な体制を確立し、加えて、留学生チューターなど、学生による支援も拡充していく。
事業の継続性	⑪補助終了後の事業の継続性	2013年度で文部科学省補助金が終了し、学内経費で外国人教員の雇用を含めて、今までと同水準の教育を維持するのは容易ではないが、どのような対策を講じるのか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ・文部科学省の補助金事業が2013年度に終了し、以降は総長裁量経費を中心とした学内経費により事業を継続している。 ・本学は、「OU ビジョン2021」や指定国立大学法人構想に示す新しい大学像として、社会課題の探索段階から大学が社会と連携し、その解決のための知をともに共創する「社会との共創」により、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」を目 指している。具体的取組として、協働研究所、共同研究講座を全国に先駆けて創設し、1,000万円以上の大型共同研究費の受入額は55.8億円で全国第1位の実績を上げている。また、これら実績をベースに企業との「組織体組織」の包括連携契約による10年で100億円を超える資金を獲得している。2018 年1 月には大学全体の共創活動を統括し支援する全学組織として「共創機構」を設置した。こうした産学共創の深化により、企業との協働研究所・共同研究講座は100を超え、2016年に46億円であった共同研究収入は2019年98.8億円という大幅な伸びを実現した。 ・寄附金については、大阪大学未来基金の拡充に向け、2019年度にファンドレイザーの増員による体制強化（常勤5名）や「大阪大学ホームカミングデイ」「大阪大学の集い」を活用した同窓生等との関係構築の進展などにより、過去最高となる約15億円の寄附を獲得した。 【今後の展望】 ・総長のリーダーシップの下で戦略的に配分する総長裁量経費については、外部資金の間接経費を財源の一部としており、産学共創活動を強化することで総長裁量経費の増加に繋げている。共創機構が大型共同研究の拡大・促進を図り、その実績は当初目標を上回る成果を上げており、組織対組織の大型共同研究の拡大による間接経費収入の増加や自己収入の増加に積極的に取り組んだ結果、2019年度には「総長裁量経費」として目標であった30 億円を上回る 31 億円の予算を確保した。 ・社会との「共創」の概念を具体化・高度化するべく、安定的かつ持続性の高い「知」「人材」「資金」の好循環を実現する「OU (Osaka University)エコシステム」の確立を進めている。学内の施策をこの方針に集約させることで教育改革・財務基盤を強化するとともに、この好循環システムの国際展開を「スーパーグローバル」OUエコシステムとして推進し、一層の財源確保を図る。
	⑫グローバル化に向けた全学的な取組	日本人（一般）学生や職員の国際化促進のため、どのような施策を講じているか。また、どのような効果が得られたか。	5	5	4	5	5	25/24	【取組状況】 ≪日本人学生≫ ・上記②≪日本人学生の国際性涵養教育≫に記載のとおり。 ≪職員≫ ・2019年度に「職員採用育成基本方針」を改定し、職員の国際化に係る具体的目標として「2023年度までに職員の37.5%（500人）以上をTOEIC700 点以上相当とする」ことを明記した。 ・本学では、職員採用試験において、高い国際感覚・語学力を持つものを積極的に採用しているほか、在職者には毎年度、TOEIC IPテストを実施し、累計83 名が700 点以上の成績を収めるなど、基準を満たす職員数は2013年度の176名から2020年度は286名と、7 ヵ年で110 名増加した。 【今後の展望】 ≪日本人学生≫ ・上記②≪日本人学生の国際性涵養教育≫に記載のとおり。 ≪職員≫ ・2022年度までを「グローバル人材育成キャンペーン期間」として位置付け、2020年度はTOEIC700点未満の者を対象とするワンランクアップ研修を実施しながら、コロナ収束後は日本学術振興会や文部科学省の海外実務研修（LEAP等）への派遣なども効果的に活用するなど、より持続的な語学力向上の仕組みを形成し、職員の国際化を強力に推し進める。

大項目	中項目	質問事項	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	総合評価	取組状況・今後の展望
事業の継続性（続き）	⑬今後の更なる国際化に向けた工程	2014年度にはスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたが、大阪大学の提唱する「世界適塾」構想実現に向け、グローバル30で構築した国際化の流れを更に加速させるために、多様な留学生入試制度確立、英語プログラムの充実が必要と思われるが、具体的にどのような工程を考えているか。	5	5	5	5	5	25/25	【取組状況】 ・本学は、江戸時代の大坂に設立された懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎつつ、「地域に生き世界に伸びる」ことをモットーとして、国立大学法人化を前に、将来の豊かな発展を期して、あらためて自らの基本理念を「大阪大学憲章」として2003年3月に制定した。その理念を実際の教育、研究、運営に具体化する方策として、第2 期中期目標期間（2010年度～2015年度）に「大阪大学未来戦略（2012-2015）」を、第3 期中期目標期間（2016年度～2021年度）に「OU（Osaka University）ビジョン2021知の協奏と共創によるUniversity4.0 への始動」を策定した。 ・「大阪大学未来戦略（2012-2015）」においては、「調和ある多様性の創造」を旨とする世界適塾構想の実現を目指し、2014年度にSGU事業に採択された。「OU ビジョン2021」では、その構想を「Openness（開放性）」をキーワードとして更に進め、大学と社会の「共創（Co-Creation）」という概念に進化・発展させ、社会変革に貢献する「世界屈指のイノベーティブな大学」を目指すことを示した。この構想の卓越性、将来性が評価され、2018年10 月に指定国立大学法人に指定されるに至った。この指定国立大学法人構想では、「社会との連携」「研究力強化」「人材育成・獲得」に関する3 つの戦略目標を設定し、「国際協働」はこれら3 つの戦略目標を実現する中で総体的に取り組むものであり、戦略目標を支える基盤としての国際連携ネットワークの強化、大学の発展を支えるガバナンス改革及び財務基盤強化に向けた取組を掲げている。 【今後の展望】 ・グローバル30事業を契機として、英語コースの開設やサポートオフィスの拡充が図られるなど、本学内で国際化の機運が高まり、その後のSGU事業や指定国立大学構想における取組の中で大きく進展した（グローバルナレッジパートナー（GKP）、大阪大学ASEANキャンパス、優秀な留学生の戦略的獲得）。今後の更なる国際化に向け、グローバル連携の企画・立案を主導し、教育・研究の世界展開をコーディネートする組織として、2016年度に設置したグローバルイニシアティブ・センター（GIセンター）を、2021年度にグローバルイニシアティブ機構（仮称）に発展的に改組する。この組織整備により、担当理事の元での企画立案機能を強化し、その施策を同機構においても直接実施するとともに、全学展開のため学内関係部局との連携体制の強化を図る。 ・更なる国際化に向けた基盤を強化するため、国立大学における国際学生寮としては最大級の規模となる「グローバルビレッジ津雲台」（留学生寮225戸・日本人学生寮75戸、教職員宿舎400戸）を2020年10月にオープンした。また、後述の箕面キャンパス移転に合わせ、グローバルビレッジ箕面船場（留学生寮200戸・日本人学生寮120戸）を2021年4月にオープンさせる。 ・国際化・多様化を支える中核的拠点として、現在の箕面キャンパスを箕面市船場へ移転し、2021年4月に「OU グローバルキャンパス」を開学する。25 言語の専攻語からなる外国語学部が中心となって、世界70 ヶ国の人々が集う多言語、多文化、多様な視点や発想が交差する教育研究環境のもとで、日本語と日本文化・伝統に対する深い理解を備え、同時に異なる言語的、文化的背景をもつ人々と共創することのできるグローバル人材を育成し、日本と世界を繋ぐ懸け橋となる「Japanese Studies」のネットワーク拠点を構築する。

参考資料①

大阪大学国際化拠点整備事業
（グローバル 30）
外部評価報告書

平成 27 年 5 月

大阪大学 総務企画部 国際交流課

はじめに

大阪大学は、平成21年に「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」（以下、「グローバル30事業」と略称。）に採択されて以後、大学の国際化に向けた全学的な推進体制を構築し、学部英語コースを2コース、大学院英語コースを2コース設置するとともに、留学生受入れのためのサポート窓口設置等の環境整備を行い、また、近隣大学とのネットワーク構築や経済・産業界との連携によりグローバル人材育成の推進を図ることで、大学の国際化を図ってまいりました。

文部科学省事業としてのグローバル30事業は、平成25年度で終了しましたが、平成26年度以降も学内経費を充てるなどして継続実施しており、平成26年10月現在、学部コースに103名、大学院コースに57名が在籍しております。

事業の成果として、構想調書に記載した数値目標のうち、大学全体の留学生受入数、学術交流協定に基づく交換留学等による日本人学生の海外への派遣数と留学生の受入数は目標を達成しました。一方、外国人教員比率は、わずかながら目標値に届きませんでした。種々要因は考えられますが、近年は、総長のリーダーシップのもと人事システム改革や学内文書の英語化等を進めることにより、受入れ体制の改善を図っております。また、経済・産業界との連携に関しては、グローバル人材の育成・活用と関西経済の活性化について、産学官がともに議論する場である「グローバル人材活用運営協議会」に参画し、産学官協働による留学生の日本企業への就職支援の在り方や方策等について検討し、グローバル人材育成に対して提言を行っています。

このように、本事業を契機として学内で国際化の機運が高まり、総長のリーダーシップのもと、本学の原点である「適塾」の精神を21世紀に体現する「世界適塾」として、創立100周年を迎える2031年に世界トップ10に数えられる研究型総合大学になるという明確な目標を掲げております。

学問の府として「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追及するとともに、学問を介して、多様性を有する人々の相互理解と協働を進め、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、持続的に発展し活力ある社会を創出するための変革を担う人材の育成やイノベーションの創出といった、グローバル社会が求める責務に応えることとしています。

このたび、外部評価委員の皆様に、事業採択から5年間の取組と実績に対する評価を行っていただき、その内容を本報告書にまとめました。ご指摘いただきました事項について、グローバル30事業終了後の本学の国際化への取組にあたり、大いに参考にしていく所存です。

最後に、貴重な時間を割いて外部評価に参加いただき、本学のために有益なご意見とご提言を提供いただきました外部評価委員の皆様に深甚の謝意を表すとともに、報告書作成のために尽力いただいた関係教職員全員に厚く御礼を申し上げます。

平成27年5月
大阪大学国際化拠点整備事業構想責任者
理事・副学長　　東　島　　清

目次

1. 外部評価実施概要 …… 1

2. 総評 …… 5

3. 評価シート ……11

4. 参考資料　（※ 以下、添付省略）

(1) 「留学生 30 万人計画」骨子 ……15

(2) 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業　事後評価結果 ……21

(3) グローバル 30 事業紹介資料「グローバル 30 の取組」 ……25

(4) 大学国際化ネットワーク推進協議会設置要項 ……41

(5) 大学国際化ネットワーク企画調整委員会設置要項 ……43

(6) 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業体制図 ……45

(7) 文部科学省からの補助金及び学内経費の推移 ……47

(8) グローバル 30 における英語による授業のみで学位が取得できるコース一覧 ……49

(9) 各コースの入学者、卒業者データ等一覧 ……51

(10) 学期末授業評価シート ……53

１．外部評価実施概要

Ⅰ　実施の経過と目的

急速なグローバル化や世界の有力大学間の競争が激化する中、我が国の大学においては、優れた留学生の獲得や戦略的な国際連携により、大学の国際競争力の強化、留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成することが急務であるという政府としての方針のもとに、平成21年に、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）（以下、「グローバル30事業」と略称。）が公募された。

大阪大学は、本事業に応募し採択されて以後、大学の国際化に向けた全学的な推進体制を構築し、学部英語コースを2コース、大学院英語コースを2コース設置するとともに、留学生受入れのためのサポート窓口設置等の環境整備を行い、また、近隣大学とのネットワーク構築や経済・産業界との連携によりグローバル人材の育成を推進することで、大学の国際化を図ってきた。

この間、日本学術振興会のもとに設置された大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会により、平成23年度に中間評価、平成26年度に事後評価を受け、これらの評価においては、ともに5段階評価の上から2番目である「A」評価を受けた。

また、学内においては、平成25年3月に外部有識者による外部評価を実施した。

今回、平成25年度で終了したグローバル30事業の5年間の取組について、多様な観点から客観的評価を得るために、産官学からなる5名の学外有識者により、外部評価を実施した。本外部評価は、補助金がもたらした成果等を客観的に検証して、今後の大阪大学の国際化のあり方を検討し、必要に応じて事業の成果を対外的に説明できるようにすることを目的としたものである。

Ⅱ　実施の概要

１．外部評価の対象となる事業

文部科学省からの補助金により平成21年度から平成25年度までの5年間に実施された「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」とする。

２．評価項目

以下の項目に関する評価を実施した。

(1) 事業全般に関する評価

事業の実施体制

評価結果への対応

構想調書に記載した数値目標の達成状況

近隣大学との連携による国際化の推進及び産業界との連携による留学生支援

外国人教員や留学生からの意見を取り入れる仕組み

(2) 教育プログラムに関する評価

学生獲得のための戦略的な広報体制

コース修了生の動向

コースの特徴ある授業

教育の質保証

留学生に対するサポート

(3) 事業の継続性

補助終了後の事業の継続性

グローバル化に向けた全学的な取組

今後の更なる国際化に向けた工程

３．評価方法

評価の実施方法は、構想調書に沿った５年間の取組から、「事業全般」、「教育プログラム」、今後の継続性確認の観点から「事業の継続性」について、評価項目に基づき達成状況並びに今後の継続性について、５段階で評価いただいた。

４．外部評価委員

大阪大学は、文部科学省事業終了後の外部評価の実施にあたり第三者の意見を求める機関として学識経験者等から構成される委員会を設置するものとし、以下の方に外部評価委員を依頼した。

委員長	松　田　　武	京都外国語大学学長
委員	原　田　恵　子	大阪府立北野高等学校校長
委員	堂　本　佳　秀	公益財団法人大阪府国際交流財団理事長
委員	キャサリン・テイラー	在大阪オーストラリア総領事館総領事
委員	山　田　昌　樹	田辺三菱製薬株式会社理事、RD 改革室主席

５．外部評価委員にかかる情報の使用の範囲及び守秘義務

大阪大学から外部評価委員を委嘱された者は、評価の過程で収集した情報は、本評価以外の目的に使用してはならない。

また、以下の各号に掲げる事項については、いかなる情報も他へ漏らしてはならない。

(1) 大阪大学の調査に関する情報

(2) 大阪大学の関係者の情報

(3) 大阪大学の調査実施にあたり、他の外部評価委員の個人情報

この守秘義務は、評価活動終了後も継続するものとする。

６．評価用資料一覧

(1) グローバル30とは？

(2) グローバル30　～これまで、そしてこれから～

(3) 「留学生30万人計画」骨子

(4) 平成21年度　国際化拠点整備事業　構想調書（組み立て直し後修正変更版）

(5) 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業　事後評価調書

(6) グローバル30事業紹介資料「グローバル30の取組」

(7) グローバル30における英語による授業のみで学位が取得できるコース一覧

(8) 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業体制図

(9) 留学生受入数、外国人教員比率、大学間交流協定等に基づく交換留学生数一覧

(10) 阪神地区大学国際化推進ネットワークの活動

(11) 「学生グローバルコンピテンスワークショップ」チラシ、アンケート

(12) 「留学生の採用を考える企業との交流会」チラシ、アンケート（2年分）

(13) 学期末授業評価シート（白紙の質問票、回答集計版）

(14) 大阪大学の中国語・韓国語ウェブサイト画面

(15) 各コースの入学者、卒業者データ等一覧

(16) グローバル30シラバス

(17) コース学生の一週間のスケジュール

(18) 「教育の質保証」ハンドブック出版企画書

(19) 財政支援状況表（入学料、授業料、奨学金）

(20) 人間科学部　大学生活案内冊子

(21) 平成25年度実践英語力強化講座　参加者募集要項

(22)「2016年入学海外在住私費外国人留学生特別入試（Ⅰ型）」チラシ

７．外部評価委員会

日　時：平成27年3月5日（木）16:00～18:00

場　所：理学研究科B102会議室（大阪大学豊中キャンパス）

出席者：*外部評価委員*

松田　　武　　委員長

原田　恵子　　委員

堂本　佳秀　　委員

キャサリン・テイラー　委員

山田　昌樹　　委員

大阪大学出席者

東島　　清　　理事・副学長（構想責任者、インターナショナルカレッジ長）

深瀬　浩一　　理事補佐・大学院理学研究科教授（グローバル30外部評価担当責任者）

山本　ベバリーアン　人間科学コース長　（大学院人間科学研究科教授）
宇山　　浩　　化学・生物学複合メジャーコース長（大学院工学研究科教授）
高部　英明　　国際物理特別コース長代理（レーザーエネルギー学研究センター教授）
米崎　哲朗　　統合理学特別コース長代理（大学院理学研究科教授）
近藤　佐知彦　国際教育交流センター教授
満尾　俊一　　総務企画部国際交流課課長
今井　京子　　教育推進部学生交流推進課課長

議　事：

1．東島理事・副学長挨拶
2．出席委員、大学側出席者自己紹介
3．委員長の選出
4．事業の取組、各コース、国際教育交流センター、インターナショナルカレッジからの説明等
5．質疑応答
6．委員長からの評価コメント

概　要：

各外部評価委員には、事前にグローバル30事業の関連資料及び外部評価のための評価シートを送付した。

委員会では、資料に基づき、大阪大学が実施してきたグローバル30事業の概要及び同事業終了後の展望について、説明を行ったのち、質疑応答を行い、今後に向けての助言を受けた。

また、今後の外部評価の実施手順について確認した。

最後に、グローバル30の学生が使用している実験施設を中心に、見学を行った。

２．総評

大阪大学が、平成 21 年度より実施してきたグローバル 30 事業における 5 年間の取組実績について、事前に精査した種々の参考資料から得た予備知識及び外部評価担当責任者並びに英語コース、国際教育交流センター、インターナショナルカレッジの各代表等に対して行った聴聞から得られる知見を勘案し、最終的な評価を行ったものである。

総体的に、大阪大学グローバル 30 事業は当初の計画に沿って着実に実施されており、日本学術振興会の下に設置された大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会（以下、「プログラム委員会」と略称。）から受けた中間評価、事後評価、及び平成 25 年 3 月に実施された大阪大学グローバル 30 事業外部評価委員会による多角的な視点からの評価がなされて以来、それらを真摯に受け止め、事業全般、教育プログラム、事業の継続性の 3 分野において改善に取り組んできた。

一方、限られた予算と人員にも関わらず、総長のリーダーシップのもとに、全学をあげて本プログラムの更なる工夫と目標達成に向けて努力がなされていることが窺える。大阪大学の真のグローバル化に向けての真摯な取組とその実現に向けての確固たるコミットメントにより、将来的にはその効果が大いに期待できると考える。

Ⅰ　優れている点

グローバル 30 事業の実施においてとくに優れていると認められるのは、以下の各点である。

Ⅰ－１　本事業遂行の全体に関わる点

①事業に対する取り組み姿勢

本事業採択当初から、明確に区分された機能・権限を与えられた運営組織を設置しており、総長のイニシアティブが貫徹する形での事業遂行がされてきた。学部コースの支援組織としてインターナショナルカレッジを置き、学内では共通教育面での授業提供の効率化、学生対応のワンストップ化が可能になった。学外では、広報・入試の統一的な実施によって人的・経済的資源の有効利用ができるほか、海外での認知度の向上につながった。

さらに、5 年間の事業の中で受けた各評価において指摘された事項には、真摯に対応し改善を図ってきた。特に、プログラム委員会による中間評価や平成 25 年 3 月実施の外部評価委員会などにおいて指摘を受けた日本人一般学生への波及効果については、早期の研究室配属やコース授業の日本人学生への開放、英語カフェ等を開催するなどして交流の機会を増やし、その実効性を高めた。

また、本事業に関わる外国人教員や留学生から意見を取り入れる仕組みとして、教員間の定期的なミーティング及び留学生に対してアンケート調査や学期初めの担当教員による面談等を実施し、要望事項を検討し改善につなげる努力をしてきた。

本事業の構想調書に掲げた留学生数や外国人教員数等の数値目標に対しても、果敢に高い目標に挑戦し、教員、事務職員が一体となって、大阪大学というブランドの向上を目指してきたことが窺える。

②他大学や産業界との連携

本事業では、平成 23 年 7 月に神戸大学、関西大学及び関西学院大学との間で結成した「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」を活用し、毎年 4 大学共同で留学フェアの開催・参加や教職員のワークショップ等を実施してきた。また、グローバル 30 事業採択大学間の連携として、京都大学、同志社大学及び立命館大学との間で結成した「G30 関西地区連絡会」では、常に本事業の取組について情報の共有を図ってきた。一方、産業界との連携については、当初の関西経済連合会と「グローバル人材活用研究会」（現在は、「グローバル人材活用運営協議会」に引き継がれている。）の活動を通じ、加盟企業との情報交換の道筋ができ、ワークショップや留学生の採用を考える企業との交流会を 2 回開催した。さらに副次的効果として、留学生の就職支援という点で経済産業省近畿経済産業局との関係も深まった。

Ｉ－２　本事業遂行の教育に関わる点

①学生獲得のための広報

各コース毎にウェブサイトを設け、コース紹介の動画を発信し、学生がイメージし易い工夫をするなど独自の留学情報を提供してきた。また、大阪大学が戦略的に受入重点国と定めている米国、オランダ、タイ、中国、ベトナムでの留学フェアや海外拠点を利用した入試面接等で海外へ行く機会を最大限に利用し、優秀な学生の出身校等を訪問して広報するほか、現地の高校訪問、各種団体主催の留学フェアへの参加や個別の大学説明会開催を通じ、優秀な留学生の確保に努めてきた。これら努力の結果、コースに入学する留学生数は事業開始時から順調に増加した。

②進学、就職の支援

各コース学生の進学、就職に当たっては、指導教員が個別に面談し、各個人にあった手厚いアドバイスを行ってきた。また、国際教育交流センターでは留学生を対象に就職対策講座（約 4 か月間で全 8 回）を年に一度開催し、吹田、豊中各キャンパスで週に 1 日の就職相談日を設けて、主にエントリーシートや履歴書の書き方等を指導している。

これらの支援を受けて、既に卒業生を出している学部コースでは、ほとんどが進学し、修了生を出している大学院コースでは、博士前期課程学生は、ほぼ進学、博士後期課程学生は、企業や高等教育機関、大阪大学の研究員やポスドクへの就職につながった。

③授業内容と教育の質保証

各コースともに少人数制教育であり、習熟度を確認しながらきめ細かな対応を行ってきたほか、随時学生の意見を取り入れ改善に活かしてきた。また、専任の日本人教員、外国人教員、留学生、事務職員との距離が近く、要望事項を含めて情報交換が密にできている。各コースの独自性を活かしながら運営に当たっており、成績優秀者に対する早期卒業の制度を構築するほか、ノーベル賞受賞級の研究者を招へいしてセミナーを開催し、意欲向上に向けた取組を行っている。

さらに、日本語学習についても、必修もしくは選択科目として取り入れており、卒業後の日本企業への就職も視野に入れることができる等の志望先の選択の幅を広げることにつながっている。

教育の質保証に関しては、各コースでは、授業内容が国際標準に合致するよう、国際

的に定評ある教科書の利用、学生に対する定期アンケート及びFDへの積極的な参加等の取組を行ってきた。成績管理においては、専任教員の定例会議に加えて、成績管理の検討会を開催している。また、大学院では、身につけた研究能力を他分野でも発揮できるか否かの観点や学際的な観点を重視した成績管理を行っている。さらに、「教育の質保証」ハンドブックを柱にしてFD活動を行い、成績管理、教授法の工夫、授業評価等教育内容の改善に向けた取組を行ってきた。これまでの成果を糧に、平成27年3月には「教育の質保証」ハンドブックを出版した。

Ⅰ－３　本事業の継続性に関わる点

①事業の継続性

大阪大学は、大学の原点である「適塾」の精神を受け継ぎ、創立100周年を迎える2031年に「世界適塾」として世界トップ10の研究型総合大学となることを目標に掲げ、総長のリーダーシップのもと、さまざまなマネジメント改革を通じたガバナンス強化に取り組んでいる。本事業終了後も、学内経費で外国人教員を雇用するほか国際化の取組を強力に推進することとしており、本事業で得られた成果や取組は、平成26年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業に引き継がれ、「教育の国際展開」、「研究の国際展開」、「ブランディングと情報発信」の三つの柱で国際展開を進めることとしている。

最終的にグローバル化が辿り着くべきところは、日本人学生と留学生が手を取り合い、助け合いながら学生生活を過ごせる大学なのであろうが、過渡期にできることとしては十分な成果があったと考えられ、グローバル化が着実に進行していると思われる。

Ⅱ　改善を求める点

以上のように、大阪大学グローバル30事業は注目すべき成果をあげており、その点については高い評価を惜しまない。しかし、その一方で、なお改善を図るべき点が存在するのも事実である。具体的には、以下の諸点を指摘しうる。

Ⅱ－１　本事業遂行の全体に関わる点

①数値目標よりも一段高い次元の目標

外国人留学生の受入数、学術交流協定等に基づく留学生受入数や日本人学生の海外派遣数は、目標値を大幅に上回ったものの、外国人教員比率の実績値は目標値に届かなかった。硬直した人事制度、英語化が進んでいない学内環境等いくつかの原因が考えられるが、大阪大学としては、既に総長のリーダーシップのもと、新たに導入された柔軟な人事制度や外国人向けのワンストップサービス、学内文書の英語化などの環境整備をより一層進めることで具体的に新たな目標値を示しており、その方向で対応を図ることは必要であろうと思われる。

限られた予算と時間内で数値目標を達成することは容易ではないが、目標の達成自体はきわめて重要である。しかし、例えば、世界における大学のランキング、留学生の在籍数などの可視的な数値目標以外に、大学関係者の多くの人を奮い立たせ、本プロジェクトには自発的に参加したいという意欲が湧くような、数値目標よりも一段高い次元の目標、言い換えれば、グローバル30事業において大阪大学はどのような普遍的な新しい

価値を創造しようとしているのか、人類社会に貢献するその具体的な目標とは何なのかということを明示することが求められよう。

願わくは、大阪大学がグローバル化を進めているのは単に大学等の利益だけのことではなく、国際社会、人類社会の普遍的な価値を作り出すといった高次元の価値を生み出すために留学生を含めた全教職員が邁進していることを確認していただきたい。そして、世界適塾構想が中身の濃いものになっていくことを期待している。

Ⅱ－２　本事業遂行の教育に関わる点

①留学生への支援

生活面での支援としては、日常的な交流や相談の場を提供し、また、日本語教育と連携したアドバイジング体制による支援等を実施している。更に、グローバル 30 事業採択を契機にサポートオフィスを設置し、ビザ取得支援、宿舎斡旋をワンストップで行うほか、キャリア支援を積極的に行ってきた。これらの取組は、ある程度の成果をあげてきたと思われる。しかしながら、経済的支援については、本事業により設置した英語 4 コース全ての検定料を不徴収とし、また、入学者の半数以上に対しては入学料及び授業料を免除し、国費外国人留学生奨学金及び大阪大学奨学金を有効に活用して、留学生への経済的支援に努めてきた。とはいえ、補助金の減額に伴いその方針は左右されてきた。今後は、出身国から奨学金を受給している学生や新たな私費外国人留学生特別入試制度の導入により、私費外国人留学生の獲得にも力を注いでいくようであるが、優秀な留学生獲得のため、新たな奨学金支給の制度を再検討することも必要であるといえよう。

Ⅱ－３　本事業の継続性に関わる点

①グローバル化に向けた全学的な取組

・日本人学生への波及効果

グローバル 30 事業だけの枠で留学生のサポートをするのではなく、日本人学生も留学生をサポートすればより良い効果が期待できよう。また、留学生が興味を持つ日本文化等の教養も必要となってくるため、国際化というのは教養課程での教育制度とも関わっている。

今後の取組としては、留学生がキャンパス内にいることの波及効果を一般学生へも広めることが重要であり、一般学生とのシナジー効果を期待した一般学生側への取組も期待したい。留学生と関わる一般学生は、語学だけではなく異文化に触れることができることから、日本文化や日本の特色を再認識する機会に恵まれ、それにより、より幅の広い教養のある人材を大阪大学から輩出できるものと思われる。

・英語授業の重要性

理系大学である大阪大学において英語授業のほとんどが理系学部に偏在しているのは理解できるが、今後大学のグローバル化を進めていくには広く文系分野の授業の英語化が不可欠のように思う。大阪大学は、国立総合大学の中で唯一外国語学部があり、平成 27 年 4 月から同学部の学生が言語だけではなく他学部の授業を受講することが可能になるとのことであるが、海外の制度、歴史、文化、文学を専門的に研究するコースが必要のように思う。例えば外国語学部を再編して、イギリス科、アメリカ科等のような専門コースの学部を設置し、広くグローバル人材を養成することも考えるべきではないか。

・大学の教育機関への本格的な転換

日本の国立大学は伝統的に講座制によって運営され、教育機関ではなく研究機関として位置づけられてきている。グローバル 30 事業の試みで、改めて大学の教育機関としての機能が問われることとなった。とりわけ語学教育は時代の要請から遠く、その機能を果たしているとは言い難い。将来的には厳格かつ公正な教員評価システムを導入する等の施策が必要である。

・世界大学ランキングへの戦略的対応

大阪大学は、「世界適塾」構想において、世界大学ランキングの向上を目指し、今後更に、教育システム、人事システムの改革、外国人留学生・研究者受入れのための環境整備を推進することとしていることは十分理解できるが、ランクを上げるための具体的な方策が見えにくい。日本にとって不利な面も多々あり不合理な世界大学ランキングではあるが、それを踏まえて、そのランクを上げていくための更なる戦略的な取組を期待するものである。

・真のグローバル化

本事業に直接関わる教職員及び一部の学生の理解と協力だけでは期待される目標の実現には自ずとその限界があろう。日本においてキャンパスの真のグローバル化という気の遠くなるような目標を達成するには、総長をはじめ、執行部役員及び教員、事務職員、そして日本人学生、留学生等全ての人の知恵と力を総動員して本事業に当たる必要があろう。そのためには文系の学部・研究科の本事業への更なる積極的な取組が望まれるが、具体的にどのように手を打っていけばよいのであろうか。また、本事業の下支えの重要な役割を担う全学の事務職員の国際化を促進するために、どのような手立てを考えているのであろうか。全学一丸となった強い取組姿勢と全学的な理解を深める努力も必要な課題である。

そして、大阪大学は本事業において他のグローバル 30 事業採択大学との違いをどこに求めようとしているのか。学生から見て、大阪大学が他大学とは違った魅力ある大学であると言わせるものは何なのかを示すことも重要である。同じ問いを別の視点からすれば、大阪大学は本事業を半永久的なものと考えているのか。プロジェクトの到達点をどこに置くのか。本事業から得られるプラスの効果以外に、それによって失うものはないのか。本事業の想像しうるマイナスの影響を最小限にとどめるための施策は何なのかの考察も重要である。マイナーな点ではあるが、資料集には、キャンパスの「グローバル化」や本学の「国際化」といった表現が見受けられるが、それは同じ意味において使用されているのか、それとも違った意味で使用されているのか。用語の定義に加え、その意味の説明が必要と思われる。例えば、英語コースの設置が、すぐにそれが「国際色」を強めることになると言えるのか。例えばその国際色とはどういう意味で何のためなのかといったことである。

以上は、本事業の目標達成のプロセスを早め、その実効性を確実なものにするため、一助になればという意図のもとに参考意見を述べるものである。

大阪大学国際化拠点整備事業（グローバル 30）外部評価委員会
委員長　　松田　武

大項目	中項目	質問事項	評価委員A	評価委員B	評価委員C	評価委員D	評価委員E	総合評価	取組状況
事業全般	①事業の実施体制	事業実施にあたり、組織的な実施体制を構築し、かつ、外部からの評価・意見を取り入れる仕組みを構築したか。	5	5	5	5	5	25/25	**【事業実施体制】** 総長を議長とし各部局長からなる大学国際化ネットワーク推進協議会を最高意思決定機関とし、その直下に実施主体となる関係者を委員とする大学国際化ネットワーク企画調整委員会を設け、ここにおいて日常的な運営に関する事項を審議している。また、具体的な事業を新たに企画する場合には、大学国際化ネットワーク企画室会議がこれにあたり積極的な実施体制を構築した。 また、平成22年8月に設置したインターナショナルカレッジは、国際化を大学の活動現場で推進する組織として位置付けられ、本事業で開設した2つの学部英語コースを管轄し、具体的には、両コースに共通教育科目の授業を提供するとともに、教務・入試・広報等各面にわたる事務を遂行した。 **【外部からの評価・意見を取り入れる体制】** 外部有識者5名から構成される、外部評価委員会を開催し事業に対する評価・意見を取り入れる仕組みを構築した。外部評価終了後は、委員からの指摘内容を大学国際化ネットワーク企画室会議で説明し、関係教職員と情報を共有し改善を図った。
	②評価結果への対応	採択時の審査結果やその後の各評価結果に対して的確に対処したか。	5	5	5	5	5	25/25	**【採択時の審査結果と対応】** 指摘内容の概要：大学としての戦略を明確にし、実施体制を明示する。留学生の増加に対応する事務体制の強化を具体化する。外国人教員の多くが新規採用であるが、教員の円滑な採用・配置が必要である。 ①大学全体で国際化戦略に取り組む体制を構築した。具体的には上述の各種委員会を運営するとともに、国際交流オフィス内に大学国際化ネットワーク事業事務室を設置し、既存の組織と連携し、本事業に係る全学的な取り組みを整備した。 ②留学生の増加に対応するための事務体制を強化した。具体的には各学部英語コースに特任事務職員を配置、学部英語コースの教務事務を管理するインターナショナルカレッジに特任事務職員、非常勤職員を配置しコースに共通して関係する事案を担当した。大学院英語コースにも非常勤職員等を配置するとともに、学生交流推進課の専任職員をカレッジ担当として配置した。 ③教員の円滑な採用、配置を行った。具体的には各英語コースに配置されている専任准教授を、新任の特任教員担当にあて、授業運営面での諸所の指導・助言等を行い、また、各英語コースにまたがるカレッジ会議を設置することにより、教員間の円滑な意思疎通を可能とし、着任した新任教員には「大学のグローバル化に対応したFD支援事業」GFDへの参加を義務付けた。 **【中間評価の審査結果と対応】** 指摘内容の概要：他の留学生や一般の日本人学生との交流が少ないので留学生の希望を確認し学内のコミュニティーに受入れられる配慮が望まれる。G30事業や英語コースの存在が学内外に十分周知されるよう努力が望まれる。 ①英語コース学生と日本人学生の交流として、コース授業を開放し、英語カフェを開催するなどした。これにより他の留学生及び日本人学生の交流が促進され、相互理解が深まっている。 ②G30及び英語コースの周知は学内では前述した授業の開放に加え、学内外に広報誌及び英字新聞等への掲載によりその存在をPRした。また、英語コースのパンフレットを作成し、留学フェア、高校訪問で配布するとともに海外拠点に設置し来訪者等に提供しPRした。加えて各英語コースウェブサイトの充実等を行い、コースの学生が帰国する際は出身校にて広報するなど、更なる浸透を図っている。 **【平成24年度実施の外部評価の審査結果と対応】** 今回の外部評価で対応状況を確認いただくこととしている。
	③構想調書に記載した数値目標の達成状況	申請時の構想調書に記載した、留学生受入れ数、外国人教員比率など設定した数値目標は達成したか。また、未達成の項目についての今後の見通しはどうか。	5	4	5	4	5	23/25	・留学生受入れ数の実績値は目標値を大幅に上回った。 ・外国人教員比率は、実績値は目標値に届かなかったが、今後三年間で外国人教員数を倍増させることは国の要請でもあり、総長のリーダーシップのもと、新たに導入した柔軟な人事制度や外国人向けのワンストップサービス、学内文書の英語化などの環境整備をより一層進めることで、まずは、平成28年度中に現在の倍の250名を目指している。これらの改革は、スーパーグローバル大学創成支援事業の採択を契機に、より一層全学を挙げて取り組み、平成31年5月1日時点の外国人教員数を350名とする（全専任教員数に対して10%強）目標が新たに設定された。 ・大学間交流協定等に基づく派遣・受入人数は目標値を大幅に上回った。
	④近隣大学との連携による国際化の推進及び産業界との連携による留学生支援	近隣の大学とのネットワークの形成による諸活動により国際化が推進されたか。また、産業界との連携により留学生支援に効果はあったか。	5	5	5	5	5	25/25	**【近隣大学との連携】** 関西地区の本事業採択大学である京都大学、同志社大学、立命館大学との間にG30関西地区連絡会を結成し、事業推進にあたっての情報交換等を行った。更に関西大学、関西学院大学、神戸大学との間に阪神地区大学国際化推進ネットワーク（略称：阪神ネット）を結成し、阪神ネットでの合同留学フェアへの参加、日韓学生会議、国際業務担当職員を対象としたSD等の共同事業を実施し、国際化への取り組みを加速させた。 **【産業界との連携】** グローバル人材活用研究会に参画し産学官協働による留学生の日本企業への就職支援の在り方や方策等について検討した。同研究会の取り組みはグローバル人材活用運営協議会に引き継がれ、引き続き参画している。同研究会等の枠組みにより、学生グローバルコンピテンスワークショップ、留学生の採用を考える企業との交流会（平成24年度、平成25年度）を開催し、グローバル社会で求められる人物像、日本での就職を考える留学生の日本企業に対する理解が深まった。

大項目	中項目	質問事項	評価委員A	評価委員B	評価委員C	評価委員D	評価委員E	総合評価	取組状況
事業全般（続き）	⑤外国人教員や留学生からの意見を取り入れる仕組み	本事業に関わる外国人教員や留学生からの意見を取り入れる工夫をしているか。また、その結果どのような効果が得られたか。	5	5	5	5	5	25/25	**【外国人教員】** 各コースでは、定期的に教員ミーティングを開催し、意見交換を行っている。同ミーティングには事務職員も参加し、外国人教員の要望をコース長やコース専任教員に伝えることで意見を取り入れる仕組みが整備されている。これにより、より柔軟なカリキュラム編成が行われた。 **【留学生】** ホームルームで寄せられる学生の声、学生からのアンケート結果や学期初めに行う担当教員による面談の結果を取り入れるほか、教員に直接寄せられた学生からの要望を教務委員会で取り上げる等の取り組みが実施されている。その結果、よりわかり易いシラバスの作成など改善が見られた。
教育プログラム	⑥学生獲得のための戦略的な広報体制	留学フェア参加や現地高校訪問等以外に、学生獲得にあたり、海外拠点の活用やウェブサイトの充実を図るなど戦略的に活動の効率化を図ったか。また、学生獲得にあたり重点国からの受入状況はどうか。	5	5	5	5	5	25/25	**【海外拠点の活用】** 海外拠点は、留学生獲得に向けた現地の有力大学・高校訪問及び現地で開催される留学フェアへの拠点長等の参加などできる限り利用されているほか、英語コース入試面接の支援拠点としても活用している。 **【ウェブサイトの充実】** 各コース個別にウェブサイトを設け、コースによっては英語に加え中国語、韓国語も加えた多言語化を図ったり、コースの動画を発信し学生がイメージし易い工夫をしたりとコース独自の留学情報を提供している。更に、大学のウェブサイトにおいても多言語化の対応をした。 **【その他の活動】** コースの学生が帰国する際、パンフレットを渡し母校での広報を依頼している。 更に、入試面接やコースの教員が海外出張する際、優秀な学生の出身校等を訪問し広報している。 **【重点国からの受入れ】** 本学が受入重点国に定めている中国・タイ・ベトナム・米国・オランダの5か国については、ベトナム以外は海外拠点があるため、そこの人的ネットワークを活用しつつ、各団体主催の留学フェアへの参加や現地の高校訪問、個別の大学説明会開催を通じ、優秀な留学生の確保に努めてきた。留学生数は事業開始時から順調に増加している。
	⑦英語コース修了生の動向	コース修了生のキャリアパスはどうなっているか。また、進学・就職の支援体制はどうなっているか。	5	5	5	5	5	25/25	化学・生物学複合メジャーコースでは、平成26年3月から3年半で卒業できる早期卒業生を出しており、そのほとんどが進学している。一例として、本コースの学生は親和性の高い統合理学特別コースに進学するケースが多い。統合理学特別コース、国際物理特別コースでも平成24年9月から修了生を出しており、博士前期課程はほぼ進学、博士後期課程学生は、企業や高等教育機関、本学の研究員やポスドクに就職するケースが多くなっている。 国際教育交流センターでは留学生を対象に就職対策講座（約4か月間で全8回で構成）が年1回開催されており、各回大学院生を中心に20名前後が参加している。また、吹田、豊中各キャンパスで週1回就職相談日を設けており、主にエントリーシートや履歴書の書き方等を指導している。更に、各コースでは、進学希望者には指導教員が手厚いアドバイスを行っている。
	⑧コースの特徴ある授業	海外から来ている学生に対し、魅力ある授業を展開する上で、何か工夫をされているか。	5	5	5	5	5	25/25	**【少人数制教育】** 全コースともに少人数制教育であり、習熟度を確認しながらきめ細かな対応を行うほか、随時学生の意見を取り入れ改善に活かしている。 **【日本語教育】** 学部コース学生に日本語学習を必修としている（14単位程度）。これにより、卒業後、日本企業への就職も視野に入れることができる等のキャリアの幅が広がることにつながっている。大学院コース学生へは選択コースを提供している。また、国際教育交流センターでは多様な留学生のニーズに応じて、能力別日本語プログラムを提供しており、加えて、留学生の家族にも日本語プログラムを提供している。 **【人間科学コース】** ・コース運営、学生の学習状況、成績評価等について情報交換を密にしている。 ・教育の質保証ハンドブックを発行し、シラバス作成から授業運営、成績評価までを見通した「質保証された教育」の実践を目指している。 ・英語コースの運営を批判的、建設的に検討しながら英語コースの授業改善や運営一般の改善に活かしている。 **【化学・生物学複合メジャーコース】** ・1年次に数学・物理学・化学・生物学の専門基礎科目を提供し基礎実験を実施し、2年次以降に化学・生物学の専門科目を提供している。 ・3年次に研究室に配属し、日本人学生との交流を図っている。 ・2年次、3年次において、ノーベル賞受賞級の研究者によるオナーセミナーを開催している。 ・成績優秀者には、3年半で学部課程を修了できる早期卒業の制度を設けている。 **【国際物理特別コース】** ・IPC minimumとして世界的に高い評価のある教科書を用いて、8教科の物理学を初年度で履修。 **【統合理学特別コース】** ・理学研究科の化学、生物科学、および高分子科学の3専攻で共同して授業を実施することにより、専門分野以外の基本的知識を修得する。 ・特色ある科目の一つにAdvanced Chemical Experimentがある。この科目は学生の研究活動にすぐに役立つ実践的な科目であり、学位論文研究に対して異分野の教員からの助言を仰ぐInteractive Seminar（博士前期課程）、Interactive Seminar for Advanced Research（博士後期課程）も提供している。

大項目	中項目	質問事項	評価委員A	評価委員B	評価委員C	評価委員D	評価委員E	総合評価	取組状況
教育プログラム（続き）	⑨教育の質保証	教育の質の高さを維持することが海外の大学との競争では必須となるが、独自の取り組みはどのようにしているか。また、「教育の質保証ハンドブック」が実際に活用され質の維持が厳密に行われているか検証できているか。	5	5	5	5	5	25/25	**【独自の取り組み】** 各英語コースでは、コース内の授業が国際標準に合致するよう、定評ある教科書の利用、学生に対する定期アンケート及びFDへの積極的な参加等の取り組みを行っている。加えて、シンポジウム等で他大学教育機関へ広く紹介し、アジアを中心に取り組みが認知されている。また、各種奨学金給付においてGPAを参考としている。 **【成績管理】** 化学・生物学複合メジャーコースでは、授業評価を各学期の中間時及び終了時にアンケート形式で実施している。人間科学コースでも各学期の終了時に評価を行っている。また、人間科学コースでは、専任教員の定例会議に加えて、成績管理の検討会を開催。大学院では、統合理学特別コースで学際的な観点を重視した成績管理を行い、国際物理特別コースにおいては、専門分野にこだわらない、身につけた研究能力を他分野でも発揮出来るか否かの観点で成績管理を行っている。 **【教育の質保証ハンドブック】** これを柱にしてFD活動を行い、成績管理、教授法の工夫、授業評価等教育内容の改善に向けた取り組みを行っている。
	⑩留学生に対するサポート	留学生に対する生活面での支援、経済的支援、就学に対する支援や就職支援について充実した取組を実施したか。	5	4	4	5	5	23/25	**【生活面での支援】** 「留学生交流情報室」（IRIS）を設置し、日常的な交流や相談の場を提供している。また、日本語教育と連携したアドバイジング体制による支援等を実施している。更に、G30事業採択を契機にサポートオフィスを設置し、ビザ取得支援、宿舎斡旋をワンストップで行っている。 なお、各コースともに少人数教育の利点から、学生の近くにいるコース教員や事務職員にいつでも相談できる体制を取っている。 **【経済的支援】** 本事業により設置した英語4コース全ての検定料を不徴収とし、入学者の半数以上に対して入学料及び授業料を免除し、国費外国人留学生奨学金及び大阪大学奨学金を有効に活用し、支援に努めてきた。 **【就学に対する支援及び就職支援】** 前述の日本語プログラムを提供し、加えて学内外の関係組織と連携しながら、留学生対象のキャリア支援を積極的に行っている。 就職・進学については、「英語コース修了生の動向」の項で説明。
事業の継続性	⑪補助終了後の事業の継続性	平成25年度で文部科学省補助金が終了し、学内経費で外国人教員の雇用を含めて、今までと同水準の教育を維持するのは容易ではないが、どのような対策を講じるのか。	5	5	5	5	5	25/25	本学は、本学の原点である「適塾」の精神を受け継ぎ、創立100周年を迎える2031年に「世界適塾」として世界トップ10の研究型総合大学となることを目標に掲げている。総長のリーダーシップのもと、大学留保ポストの戦略的な再配分、学内資源配分の見直し、クロス・アポイントメント制度の構築などさまざまなマネジメント改革を通じたガバナンス強化に取り組むとともに、大阪大学未来基金への寄附金獲得を目指したキャンペーンを展開するなどG30事業終了後も、学内経費で外国人教員を雇用するほか国際化の取り組みを強力に推進することとしている。G30事業で得られた成果や取り組みは、平成26年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業に引き継がれ、「教育の国際展開」、「研究の国際展開」、「ブランディングと情報発信」の三つの柱で国際展開を進める。
	⑫グローバル化に向けた全学的な取組	日本人（一般）学生や職員の国際化促進のため、どのような施策を講じているか。また、どのような効果が得られたか。	4	4	4	5	5	22/25	【日本人（一般）学生】 全学教育推進機構において、学部1年生全員を対象としたTOEFL-ITP試験を実施しており（11月）、共通教育「実践英語」の成績評価においてTOEFL-ITPスコアを換算するなどして語学力修得に係る意欲向上を促している。IELTSについても事前対策講座・学内試験を実施するほか、ブリティッシュ・カウンシル等の協力を得て短期型の「実践英語力強化講座」を提供するとともに、英語環境に慣れ親しむ観点から「イングリッシュカフェ」として、グローバル・コモンズ等を介した留学生との英語での交流の機会を充実させている。このようなカフェは、英語だけでなく、「多言語カフェ」として平成23年度に設置し、英語をはじめ中国語、朝鮮語、ドイツ語、スペイン語、フランス語で留学生と会話をする機会を提供している。語学力を一定程度備えた学生については、短期留学生用の英語による授業「国際交流科目」やG30の学部英語コースの英語で提供される授業科目の履修を通じ、語学力と教養・専門性の育成を図っている。 以上の取り組みから、単に語学力養成にとどまらず諸現象をグローバルに俯瞰できる学生を育成することができた。 【事務職員】 事務職員の高度化への取り組みとしては、従来、長期（1年間）もしくは短期（3ヶ月間）の海外研修を実施するほか、海外拠点勤務を通じての研修を実施してきた。また、国内においても英会話学校を利用した語学研修を実施してきたが、多様な個性や能力を有する人材の雇用を推し進めるため、平成23年度から本学独自の職員採用試験を実施し、特に国際化対応の観点から国際感覚と実践的な外国語コミュニケーション能力を備えた事務職員の採用を進めてきた。平成23年10月から平成26年4月の採用者30名中22名がTOEIC700点以上で、900点を超える者も数名採用している。このほか、ネイティブ・スピーカーによる語学研修、英語コミュニケーション能力養成研修、英語プレゼンテーション研修等、年度毎多様な研修を実施し、多数の職員に英語に慣れる機会を与えている。 以上の取り組みから、加速する大学のグローバル化に対応した業務を遂行できる職員の育成・採用を行うことができた。

大項目	中項目	質問事項	評価委員A	評価委員B	評価委員C	評価委員D	評価委員E	総合評価	取組状況
事業の継続性（続き）	⑬今後の更なる国際化に向けた工程	平成26年度にはスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたが、大阪大学の提唱する「世界適塾」構想実現に向け、グローバル30で構築した国際化の流れを更に加速させるために、多様な留学生入試制度確立、英語プログラムの充実が必要と思われるが、具体的にどのような工程を考えているか。	5	5	5	5	5	25/25	本学はスーパーグローバル大学創成支援事業において、様々な学修段階において能動的な学びと知的統合や切磋琢磨を促す機会を多様に提供することで常識や既成概念にとらわれずグローバル社会における複雑で困難な課題に対し果敢に挑み解決へと導くことができる人材を輩出していき、2024年までに世界トップ30、2031年に「世界適塾」として世界トップ10の研究型総合大学となることを目標にしている。 **【多様な留学生入試制度確立】** 平成26年度にグローバルアドミッションズオフィス（GAO)を設置した。平成27年度から海外協定校推薦や特別入試制度などを実施する。 **【英語プログラムの充実】** 平成26年度にカリフォルニア大学のオフィスを誘致したが、今後双方で緊密な関係を築き、更なる学生交流、研究者交流、共同研究等を促進する。 参考：スーパーグローバル大学創成支援事業における2024年までの工程 2015年 ・ティーチング・フェロー（TF）の新設、 ・マルチリンガルエキスパート養成プログラムを開始 2017年 ・世界適塾大学院設置【クオーター制（3学期制）の導入、新AO入試の全学導入】 2019年 ・世界適塾ビレッジ（混住型学生寮、教職員宿舎）運用開始 2021年 ・授業の難易度、順番を明示する科目ナンバリングの完成、 ・シラバスの日英併記 2023年 ・国際ジョイントラボを100拠点 2024年 ・世界トップ30の研究型総合大学

参考資料②－1

国際化拠点整備事業（グローバル30）における数値目標の達成状況

留学生受入	計画時 2008.5.1現在	2013年度末 目標（a）	2013年度末 実績（b）	差 （b-a）	2020年度末 目標（c）	2019年度末 通年実績（d）	差 （d-c）
留学生数（A）	―	1,960	2,816	856	3,000	3,901	901
（A）のうち在留資格が「留学」の者	1,385	1,655	2,556	901	2,205	3,448	1,243
全学生数（B）	25,364	25,280	24,530	-750	26,320	24,414	▲ 1,906
留学生比率（A／B）	―	7.80%	11.50%	3.70%	11.40%	15.98%	4.58%

外国人教員	計画時 2008.5.1現在	2013年度末 目標（a）	2013年度末 実績（b）	差 （b-a）	2020年度末 目標（c）	2020年度 5.1現在実績 （d）	差 （d-c）
外国人教員数（C）	83	148	129	-19	210	344	134
全教員数（D）	2,883	2,900	3,177	277	2,900	3,585	685
外国人教員比率（C／D）	2.90%	5.10%	4.10%	-1.00%	7.20%	9.60%	2.40%

大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大	計画時 2008.5.1現在	2013年度末 目標（a）	2013年度末 実績（b）	差 （b-a）	2020年度末 目標（c）	2019年度末 通年実績（d）	差 （d-c）
派遣	227	330	513	183	640	591	▲ 49
受入	170	480	528	48	970	720	▲ 250

① グローバルナレッジパートナー（GKP）参考資料②-2

目的

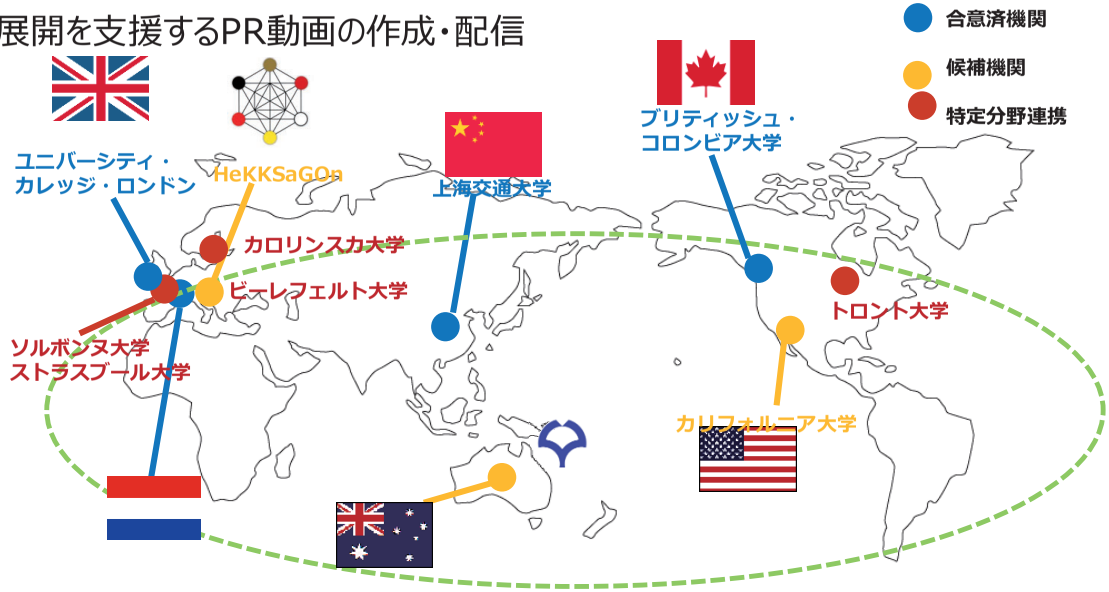
世界最先端の共同研究成果による地球規模課題の解決

取組

- UCL，上海交通大学，グローニンゲン大学と包括連携の枠組みで連携合意
- UCLとのシードファンド，上海交通大学とのマッチングファンド等により，認知症，スマートシティ等に関する国際共同研究を推進
- 重点3研究領域の国際展開を支援するPR動画の作成・配信

● 包括連携（7大学程度）
UCL，上海交通大学，グローニンゲン大学
UBC
（候補）
カリフォルニア大学，モナシュ大学，HeKKSaGOn

● 特定分野連携（13大学程度）
（候補）
ソルボンヌ大学（AI）
ストラスブール大学（化学）
トロント大学（量子）
ビーレフェルト大学（共生知能）
カロリンスカ大学（生命医科学）　等



これまでの成果・実績

- 指定国立大学法人構想に掲げる20大学との連携を目指し、UCL、上海交通大学、グローニンゲン大学及びUBCの4大学とGKPの枠組み連携に合意
- （UCSD）及び同デービス校（UCD）とは情報科学分野、生物工学分野をはじめとする連携について協議中。また、ソルボンヌ大学、ストラスブール大学とはAIや化学等の分野に関する組織的な交流を開始
- UCLとのシードファンド、上海交通大学とのマッチングファンド等により、認知症、スマートシティ等に関する国際共同研究を40件実施し、国際共著論文を23報発出、外国人研究者を42名受入
- ジョイントワークショップを開催し、博士後期課程の学生を含め延べ人数で211名が参加
- 2021年に開催する本学創立90周年記念国際シンポジウム（オンライン）にGKP校等を招待し、これまでの事業成果と今後の展開を議論予定

② ASEANキャンパス

「知の協奏と共創」を日本とASEANで実装する高度グローバル人材の育成拠点の形成

目的

現地ニーズに応える教育研究を展開。知識共創社会を先導する高度グローバル人材の育成により，地域課題解決のための社会実装に貢献する。

取組

- タイ・インドネシア・ベトナムにASEANキャンパスを設置
- ASEANキャンパスを活用したダブル・ディグリー・プログラム（DDP）を構築
- JASSOの海外留学支援制度採択事業により、学生の派遣・受入を実施
- ASEANキャンパス独自の奨学金制度を構築
- ブルネイにおいて，キャリア開発を主眼とする英語プログラムを構築
- DDP参加学生増加に向け遠隔講義や出張講義等を組み込んだ新規教育プログラムとして Osaka University International Certificate Program（OUICP）を開発

今後の展望・課題

- 令和２年度中にブルネイにASEANキャンパスを設置
- 産官学民の連携による「大阪大学ASEANキャンパス支援事業」への寄附受入の拡大
- 現地教職員との連携による研究力強化及び教育活動の推進（業務委託等の活用）
- オン・オフラインを組み合わせたハイブリット型プログラムの開発検討
- ASEANキャンパス理系院生のための日本語VODなどの副教材等作成

Osaka University

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

All in One Plan

リュックひとつで阪大へ。

完全なキャンパスライフサポートと素敵な未来があなたを待っています。

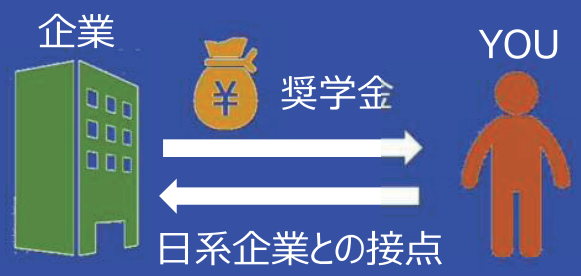
①最高環境のシェアハウス

学修や研究に取り組むためには、快適な住環境が必要です。大阪大学では、留学生向けのシェアハウスCUNをキャンパス付近にて提供しています。3名1戸で、一人ひとりにプライベート空間も完備した快適環境です。家具・家電などもすべて揃っており、入居に必要な各種手続きも簡単！

さらに、自然災害や近隣トラブルなどの場合は、常に対面・電話サポートしているので安心です。

日本の典型的な街に溶け込んだシェアハウスだからこそ、日本の暮らしや文化に触れることもできる立地環境です。

②奨学金による生活サポート



学修・研究に専念するためには、暮らしに必要なお金が手に入ることが必要です。そこで、大阪大学では民間奨学金制度を用意しています。

日系企業が、学生の特徴に応じた奨学金を提供し、書面や面接による選考を経て給付を開始します。

同時に、日系民間企業と出会い、その企業の事業内容について理解することを通じて、製造開発や流通等のノウハウを理解することにもつながります。

③日系企業との出会い

学修・研究の期間を終えた後の進路までサポートするのが大阪大学です。

低学年の段階から、留学生学生を対象とした学内インターンシッププログラムを実施します。日系企業について理解したり、企業の採用担当者と直接お話する場面を設定し、日系企業と留学生の接点を作ります。

卒業後も就職先企業とみんさんのキャリアアップ、生活サポートを連携していきます。

留学期間に必要なすべての局面であなたをサポート。
大阪大学が誇る最高の学修環境と生活支援で豊かな留学生活を！

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

What's "All in One Plan"?

「留学に行こう！」と思ったあなたの、留学スタートから
将来の進路選択まで一環してサポートする取組みです。

①～入学まで

◆大阪大学への留学に関する情報を提供

交換留学生の体験記や各種メディア配信等を通じて大阪大学について情報を提供。

◆受験と同時に住まい探し

受験と同時に住まいの申し込みや暮らしをサポート。

◆入学準備のサポートと必要な情報提供

空港出迎えや住まいまでの送迎によるフルサポート。友達作りや住まい周辺の住環境も案内。

②学生生活

◆授業/研究

◆大学生活

履修や研究活動はもちろん、クラブ・サークル活動やインターンシップ、日本文化への接点などを通じて企業が求める知識や技術、集団意識、日本語レベルを獲得できます。

◆生活環境

シェアハウスで暮らしつつ、地域コミュニティへの参加を通じて、日本の家庭と触れ文化を知ります。

留学した成果となる

- ・成績(GPA)
- ・研究業績（論文・博士号）
- ・自己評価（自己成長など）

③進路検討

◆進路検討

自分の未来図を描けるよう、日系企業との接点を早期からつくり、具体的社会人のイメージを持てます。

◆就職活動

留学生の受け入れを積極的に行う企業や母国への進出を行う企業を紹介し、適切な就職先選びをサポートします。

◆入社

入社後には、阪大プログラムへの評価と、魅力を次世代に伝えてもらい、循環を生んでいきます。

大阪大学への留学が、価値あるキャリアプランにつながる。

CLASSROOM ENVIRONMENT

YOU WILL ENJOY :

- **Innovative teaching**
  Learner-centered approach, award-winning professors, first-hand research information;
- **Small class sizes**
  Opportunity to have deeper discussions with other students and professors, and get necessary support;
- **Diverse groups of students**
  Opportunity to take classes with international and exchange students, students from Japanese programs and graduate students;
- **International students and professors mix**
  There are representatives from almost all continents.

DESTINATIONS AFTER GRADUATION

- Global and Japanese corporations;
- International agencies including the UN, government and municipal agencies, NGOs, etc.;
- Graduate studies at Japanese universities or other universities around the world.

JOIN THE SCHOOL OF HUMAN SCIENCES

Contact Us

G30 Office
Human Sciences International
Undergraduate Degree Program
School of Human Sciences
Osaka University

1-2 Yamadaoka, Suita
Osaka, 5650871
JAPAN

Email
englishprogram@hus.osaka-u.ac.jp

Website
https://g30.hus.osaka-u.ac.jp/

LEARN ABOUT THE WORLD AROUND YOU

Human Sciences International
Undergraduate Degree Program

OSAKA UNIVERSITY

SHARED VISION FOR THE THREE FOCUS AREAS

The Human Sciences International Undergraduate Degree Program aims to give students a well-defined area of disciplinary expertise that can be applied in different settings to bring workable solutions to a variety of problems and issues. After taking shared foundation courses in the first three semesters, from the fourth semester students will begin to take advanced courses. At that time, we will invite students to choose one of three areas to focus their studies: ***Political and Global Studies***, ***Diversity and Inclusion Studies***, and ***Japan Studies***. They will take advanced level courses to build their expertise in one of these areas of concentration and also focus their undergraduate dissertation in a related area of research. At graduation students awarded a Bachelor of Human Sciences.

POLITICAL AND GLOBAL STUDIES

Knowledge of politics and international relations is more important than ever in today's interconnected world. The Political and Global Studies concentration offers students a rigorous selection of courses covering domestic politics, international relations, and political economy.
Examples of courses : Peace and Conflict Studies/East Asian Politics/ Globalization, as well as courses on Japanese politics.

DIVERSITY AND INCLUSION STUDIES

This focus asks students to address issues of equality, participation and inclusion for people who are very differently located in society. Students will be expected to explore the question of what systems and practices are needed to create greater equality, participation, and inclusion across diverse settings such as education, health, and business.
Examples of courses include: Human Rights/ Health, Education and Inequality/ Civil Society Movements/ Sociology of Migration, and Gender and Development.

JAPAN STUDIES

The Japan Studies focus invites students to study Japan from a number of angles including its culture, social systems, institutions, as well as its global influence.
Examples of courses include: Contemporary Educational Issues in Japan/ Social Stratification in Japan/ Religion in Japanese Society/ Popular Culture, and Japanese Law.

Learn more about the curriculum at

COURSE STRUCTURE

01 FRESHMAN YEAR

Foundation courses
Core courses
Elective courses
Japanese language Study

02 SOPHOMORE YEAR

Spring&Summer semester
Foundation courses
Core courses
Elective courses
Japanese language Study

From Spring&Summer semester
Major courses from three focuses

03 JUNIOR YEAR

Major courses
Independent Research

04 SENIOR YEAR

Major courses
Dissertation

Osaka University

is ranked No 3 in Japan and 55 world-wide (QS Ranking). Those who choose to study science in Japan recognize this country's prowess in many fields of science and technology, supported by an excellent research climate and extensive corporate investment. CBCMP students can choose from more than a hundred research laboratories in Osaka University to continue their research at the post-graduate level.

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

For more information visit:
http://www.icou.osaka-u.ac.jp/cbcmp/

Osaka University International College Office
1-30 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka 560-0043 Japan.
email: intcollege-ina@ml.office.osaka-u.ac.jp

参考資料⑥－2

Chemistry-Biology Combined Major Program

Chemistry-Biology Combined Major Program (CBCMP)

CBCMP is an exciting opportunity to study two fundamental and interacting fields of scientific endeavor at the undergraduate level that will prepare you for the challenges of the rapidly advancing scientific frontier. The CBCMP will expose you to interdisciplinary research across the fields of chemistry and biology, as well as enhancing your skills of intercultural understanding and communication. The CBCMP offers small class sizes with intensive and dedicated instruction. By enrolling in the Chemistry-Biology Combined Major Program (CBCMP), students become part of an internationally renowned academic community and gain access to a whole world of possibilities.

Degree at a glance

Enrollment: October 1st
Yearly intake: 20 students maximum
Language of instruction: English
Duration: 4 years (fast-track 3.5 years)
Degree awarded: Bachelor of Science or Bachelor of Engineering
Eligibility: Standard 12-year curriculum *; non-native English speakers required to submit a score from TOEFL, IELTS, or similar.
Application Deadline: Around January 20th *

*see web site for details

Costs

One of the major benefits of studying in Japan is that IT'S CHEAPER! There are no international student fees in Japan, you only pay the same as a standard student.
Application Fee: 17000 yen
Enrollment Fee: 282000 yen
Tuition: 267900 yen per semester
1st Year Dormitory: ~180000 yen (for 1 year)

Language

All subjects required for graduation are offered in English. Our students will gain the English proficiency needed to apply scientific knowledge within the international community. In addition a 2-year Japanese language program (extra half year optional) is offered. Students who master Japanese will gain access to extra biology, chemistry, and other courses.

Osaka University

Osaka University is one of Japan's outstanding comprehensive universities. It is situated in Osaka, the second-largest metropolitan area in Japan and historically a merchant city known as the "nation's kitchen." Those who choose to study science in Japan recognize this country's prowess in many fields of science and technology, supported by an excellent research climate and extensive corporate investment.

IUPS students can choose from more than a hundred research laboratories in Osaka University to continue their research at the post-graduate level.

International Undergraduate Program in Science (IUPS)
https://www.sci.osaka-u.ac.jp/en/iups/

Application
https://www.sci.osaka-u.ac.jp/en/admissions/undergraduate-programs/

Osaka University
http://www.osaka-u.ac.jp/en/for-student

School of Science
https://www.sci.osaka-u.ac.jp/en/

Center for International Education and Exchange
http://ciee.osaka-u.ac.jp/en/

Living in Japan
https://iss-intl.osaka-u.ac.jp/supportoffice/eng/living/

Contact

Osaka University International College Office
1-30 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka 560-0043 Japan
E-mail: internationalcollege@office.osaka-u.ac.jp

OSAKA UNIVERSITY

2019.8

参考資料⑥－3

International Undergraduate Program in Science

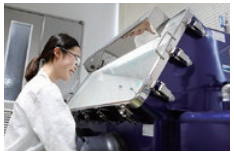
School of Science, Osaka University

OSAKA UNIVERSITY
School of Science
Graduate School of Science

Department of
Chemistry

http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/chem/chem/index-en.html

The Department of Chemistry comprises more than 20 laboratories of inorganic chemistry, analytical chemistry, physical chemistry, organic chemistry, and macromolecular science. Faculty members are involved in high-level education and research, collaborating with overseas researchers.



Department of
Mathematics

http://www.math.sci.osaka-u.ac.jp/eng/index.html

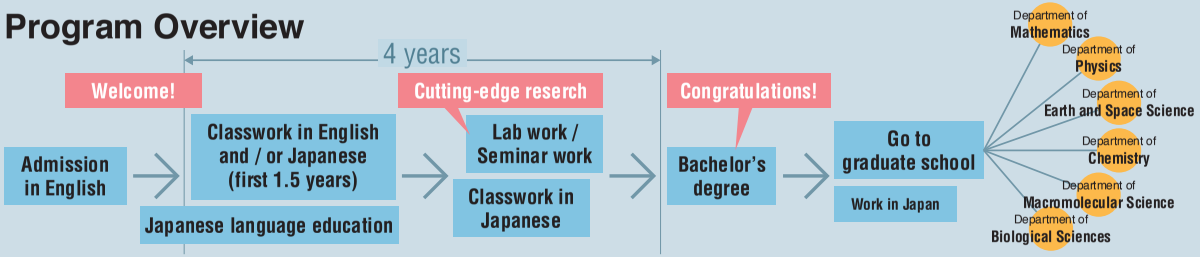
The Department of Mathematics consists of 6 research groups: algebra, geometry, analysis, global geometry and analysis, experimental mathematics, and mathematical science, all of which have been making substantial contributions to the development of mathematics.

Department of
Physics

http://www.phys.sci.osaka-u.ac.jp/undergraduate-en.html

The Department of Physics offers a world-class education to its undergraduate and graduate students. Established in 1931, its current activities include elementary particle physics, nuclear physics, condensed matter physics, computational physics, interdisciplinary physics, and earth and space science.

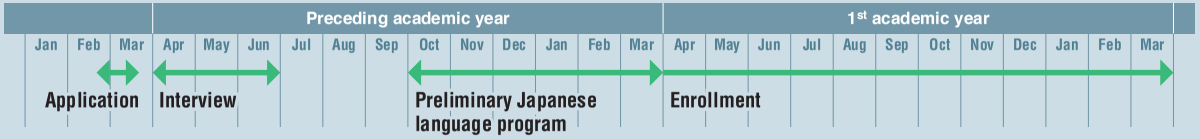
Program Overview



The Department of Mathematics, the Department of Physics, and the Department of Chemistry in the School of Science have established the International Undergraduate Program in Science for international students. The program usually takes 4.5 years in total to complete and a bachelor's degree is awarded to students at graduation.

For six months prior to enrollment, Osaka University will offer intensive Japanese language education and some preliminary science classes depending on the chosen major. At the beginning of this program, students mainly take classes in English and study Japanese in the Japanese Language Course. Later, students study major subjects in Japanese together with Japanese students.

Timeline



Costs

One of the major benefits of studying in Japan is that it's less expensive than for example in the US, UK or Australia! There are no international student fees in Japan.

Application fee	26,800 JPY

For undergraduate school

Enrollment fee	282,000 JPY
Tuition fees	267,900 JPY per semester

For the preliminary and extensive Japanese language education program

Enrollment fee	84,600 JPY
Tuition fees	173,400 JPY per semester

1st year dormitory	~240,000 JPY (for 1 year)

*These fees are subject to change.

Students enrolled in this program will be assigned to on-campus dormitories for the first year on a preferential basis.
The average monthly living cost in Osaka is estimated at approximately 100,000 yen, including the rent. Detailed information about living in Japan is available at the Support Office.

Financial Support

There are various scholarships that IUPS students can apply for, such as:

1. **Monbukagakusho Honors Scholarship for Privately Financed International Students (i.e. JASSO scholarship)**
2. **Scholarships from local governments or international associations**
3. **Scholarships from private foundations**

Osaka University students are eligible to apply for tuition fee exemption (for either half or all tuition fees).
See also the website about scholarships at Osaka University.

Support Office for International Students and Scholars
https://iss-intl.osaka-u.ac.jp/supportoffice/

Financial Support
http://www.osaka-u.ac.jp/en/guide/student/tuition

参考資料⑦

		2010	2011	2012	2013	2014	2015
理学部・工学部・基礎工学部 化学・生物学複合メジャーコース（※）	志願者数	19	59	64	52	53	66
	合格者数	14	21	41	37	28	25
	入学者数	13	12	19	19	19	18
	うち外国籍の者	11	11	12	13	14	8
	うち奨学金受給者	11	10	9	14	13	11
	うち入学料免除採択者	13（国費：11）	12（国費：3）	11（国費：1）	8（国費：3）	0	3（国費）
	うち授業料免除採択者	13(国費：11)	12（国費：3）	14（国費：1、半免：3）	16(国費：4、半免：2）	10（半免：8）	4（国費：3、半免：1）
	卒業者数				5	10	12
	進学				5	8	11
	主な進学先				大阪大学 神戸大学 National University of Singapore	大阪大学 University of Toronto Univeristy of Regensburg University of Aukland University of Oxford	大阪大学 Rice University John Hopkins University University of California
	就職				0	1	1
	主な就職先				-	母国の会社	母国の会社
	進学･就職以外				0	1	0
	退学者数	0	0	0	3	1	1

		2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学部・工学部・基礎工学部 化学・生物学複合メジャーコース（※）	志願者数	90	94	84	65	42	-
	合格者数	21	20	22	24	12	-
	入学者数	9	12	13	12	12	-
	うち外国籍の者	8	8	10	8	8	-
	うち奨学金受給者	8	9	11	8	-	-
	うち入学料免除採択者	4（国費）	4（国費）	4（国費）	2（国費）	-	-
	うち授業料免除採択者	6（国費：4、半免：2）	5（国費：4、半免：1）	5（国費：4、半免：1）	7（国費：2、半免：3）	-	-
	卒業者数	16	18	13	14	4	-
	進学	14	15	12	11	4	-
	主な進学先	大阪大学 University of Melbourne Imperial College London	大阪大学 University of Manchester University of Cambridgex Imperial College London	大阪大学 Paris Descartes University	大阪大学 University of Warwick	大阪大学 University of Texas at Austin	-
	就職	1	1	0	0	0	-
	主な就職先	母国の会社	Goldman Sachs	-	-	-	-
	進学･就職以外	1	2	1	3	0	-
	退学者数	2	1	1	1	1	-

（※）化学・生物学複合メジャーコースは、2019年10月入学を最後に学生募集を停止し、2021年4月から新たに理学部国際科学特別コースにおいて学生の受入を開始予定。したがって、同コースの2020年度入試の実績は、国際科学特別コースの数値。

			2010	2011	2012	2013	2014	2015
人間科学部	人間科学コース	志願者数		29	61	60	80	51
		合格者数		10	10	10	15	15
		入学者数		9	10	8	14	10
		うち外国籍の者		6	6	5	10	6
		うち奨学金受給者		5	6	5	10	7
		うち入学料免除採択者		9（国費：1）	10（国費：1）	7（国費：2）	0	5（国費）
		うち授業料免除採択者		9（国費：1）	10（国費：1）	7（国費：2）	11（半免：3）	6（国費：5、半免：1）
		卒業者数						7
		進学						3
		主な進学先						大阪大学
		就職						4
		主な就職先						京セラ株式会社 楽天株式会社
		進学･就職以外						
		退学者数		0	1	1	1	3

			2016	2017	2018	2019	2020	2021
人間科学部	人間科学コース	志願者数	73	93	94	89	96	-
		合格者数	20	20	20	20	20	-
		入学者数	14	13	10	14	15	-
		うち外国籍の者	9	9	5	10	7	-
		うち奨学金受給者	9	11	6	10	8	-
		うち入学料免除採択者	3（国費）	6（国費）	4（国費）	6（国費）	7（国費）	-
		うち授業料免除採択者	8（国費：3、半免：5）	7（国費：6、半免：1）	4（国費）	8（国費：6、半免：2）	7（国費）	-
		卒業者数	8	7	14	7	12	-
		進学	3	4	5	5	5	-
		主な進学先	大阪大学 東京大学	東京大学 立命館 エラスムスムンドゥスプログラム　他	大阪大学 京都大学 ライデン大学 他	エジンバラ大学 グルノーブル大学 ボストンカレッジロースクール 他	東京大学 オックスフォード大学　他	-
		就職	3	1	7	0	5	-
		主な就職先	Coldman Sachs JICA 外資系コンサルティング会社	教育機関	大阪ガス株式会社 ロバート・ウォルターズ 株式会社ビケンテクノ		三洋化成工業株式会社 国内企業　他	-
		進学･就職以外	2	2	2	2	2	-
		退学者数	1		1		1	-

参考資料⑨－1

カリキュラムマップ 人間科学部 人間科学科 人間科学コース　学位プログラム：人間科学

	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年				2年				3年				4年			
					秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期
学習目標A 自らの思考・判断のプロセスを他者に説明し、伝達するための複眼的な知識やそれらを十分に伝えることができるプレゼンテーション能力を持っている。		○			基盤教養教育科目 必修：Academic Writing, Critical Thinking Skills, Research Presentation Skills 情報教育科目: Data Processing Skills															
学習目標B 人間と社会の諸側面について学際的で幅広い知識を身につけている。	○	○			健康スポーツ教育科目: Health and Sports 1, Health and Sports 2								専門教育科目 必修: Independent Study				専門教育科目 必修: Dissertation Seminar, Research Data Analysis		専門教育科目 必修: Dissertation Tutorial	
学習目標C Political and Global Studeis, Diversity and Inclusion Studies, Japan Studiesの３つのフォーカスについて幅広い知識を体系的に理解している。	○	○			基盤教養教育科目 必修：Introduction to International Education, Intorduction to Sociology, Introduction to Politics, Introduction to Diversity and Inclusiton, Introduction to Japan Studies, Intoduction to Global Studies, Gender Studies, Japanese Society and Culture															
学習目標D 人間と社会の諸側面や課題に関わる専門的知識を習得し、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。	○			○			専門基礎教育科目 必修: Quantitative Research Methods, Qualitative Reaseach Methods				専門教育科目 必修: Peace and Conflict Studies, Spcology of Knowledge 選択: Global Health and Education, Gender and Education, Social Stratificationin Japanese Society, East Asian International Relations, Popular Cultre in Japan, Gender and Development, Diversity and Human Rights in Japan, Contemporary Educational Issues in Japan, Primatology in Japan, Multivariate Data Science, Issues in Asian Anthropology, International Development and Collaboration Ⅱ, Disaster Prevention and International Cooperation, Contemporary Japanese Thought, Comparative Theories of Society and Culture, Issues in Gerontology, Food, Culture and Society, Global Issues in Education, Psychology of Aging, Special Topic in Human Sciences Ⅰ~Ⅴ, Peace Operations and the Global Community, Global Environment-Development Balance, World Affairs and the Media, World Affairs and the Media, Economic Development, Classic Poetry in China, Japan and Korea, Traditional Performing Arts in Contemporary Japanese Society, Gender in Contemporary Japanese Popular Culture, Statistics for Social Research, Sociological Theory, Comparative Education, Applied Phenomenology, Sociology of Migration, Psychology of Perception and Cognition, Women and Religion in Contemporary Japan, Social Science Japanese Texts Reading, East Asian International Relations, Japanese Diplomacy, East Asian Politics, Globalization Studies, Seminar in Studies of Multicultural Societies, Seminar in Cultural Icons in Manga and Anime, Seminar in International Labor Theory							
学習目標E 課題解決や科学的探究を具体的に実践できる能力を持っている。				○			専門基礎教育科目 選択: Human Rights, Global Citizenship, Japanese History, Political Economy, Introduction to Cultural Anthropology, Japanese Law, Media Sociology, Cross Cultural Psychology, International Law, Osaka in Modern Japanese Literatureなど													
学習目標F 実験・調査・フィールドワークなどを通じて、社会や学術における課題を発見する力やそれらを解決するための方策や考え方などを組み立てるデザイン力を持つ。	○			○																
学習目標G 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代における学問的・社会的要請に人間科学的な視座や方法論から真摯に応えようとする意欲を持っている。				○																
学習目標H 国際的に貢献できる素養の基礎となる外国語力を持つ。			○		マルチリンガル教育科目															
学習目標Ⅰ 異なる文化を持つ他者とのコミュニケーションに意欲的にチャレンジする実践力を持っている。			○										高度国際性涵養教育科目							

教養教育系科目
専門教育系科目
国際性涵養教育系科目

カリキュラムマップ 人間科学部 人間科学科 各学科目全体　学位プログラム：人間科学

	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年 春学期	1年 夏学期	1年 秋学期	1年 冬学期	2年 春学期	2年 夏学期	2年 秋学期	2年 冬学期	3年 春学期	3年 夏学期	3年 秋学期	3年 冬学期	4年 春学期	4年 夏学期	4年 秋学期	4年 冬学期
学習目標A 自らの思考・判断のプロセスを他者に説明し、伝達するための複眼的な知識やそれらを十分に伝えることができるプレゼンテーション能力を持っている。		○			学問への扉 情報教育科目		アドヴァンスト・セミナー				高度教養教育科目		未来共創フィールド実習Ⅰ・Ⅱ インターンシップ実習A・B				専門教育科目/共通科目（必修）：卒業演習	専門教育科目/共通科目（必修）：卒業研究
学習目標B 人間と社会の諸側面について学際的で幅広い知識を身につけている。	○	○			健康スポーツ教育科目 基盤教養教育科目 専門教育科目/基礎科目（必修）：人間科学概論 自然科学と人間科学		専門教育科目/基礎科目（必修）：行動学概論（心理学概論） 社会学概論		専門教育科目/基礎科目（選択必修）：心理学実験、現代社会の課題、現代日本の教育問題、共生の理論と実践		他学科目の専門教育科目（選択）									
学習目標C 行動学、社会学、教育学、共生学のいずれかについて基本的な知識を体系的に理解している。	○	○									専門教育科目/学科目指定（選択）：基礎心理学（知覚・認知心理学）、現代社会学、									
学習目標D 人間と社会の諸側面や課題に関わる専門的知識を習得し、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。	○			○	専門基礎教育科目（必修）： 専門教育科目/基礎科目（選択）：行動学の考え方、社会学の考え方								専門教育科目/学科目指定（選択）のうち演習科目：基礎心理学演習Ⅰ、現代社会学演習Ⅰ、教育人間学演習Ⅰ、							
学習目標E 課題解決や科学的探究を具体的に実践できる能力を持っている。				○							専門教育科目/共通科目（選択）									
学習目標F 実験・調査・フィールドワークなどを通じて、社会や学術における課題を発見する力やそれらを解決するための方策や考え方などを組み立てるデザイン力を持つ。	○			○							専門教育科目/学科目指定の実験実習科目（必修）：人間行動学実験実習Ⅰ、人間行動学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）、行動生態学実験実習Ⅰ、行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）、社会環境学実験実習Ⅰ、現代人間学実験実習Ⅰ、文化人類学実験実習Ⅰ、臨床教育学実験実習Ⅰ、		専門教育科目/学科目指定の実験実習科目（必修）：人間行動学実験実習Ⅱ、人間行動学実験実習Ⅱ（心理演習）、行動生態学実験実習Ⅱ、行動生態学実験実習Ⅱ（心理演習）、社会環境学実験実習Ⅱ、現代人間学実験実習Ⅱ、文化人類学実験実習Ⅱ、臨床教育学実験実習Ⅱ、臨	専門教育科目/学科目指定の実験実習科目（必修）：人間行動学実験実習Ⅲ、人間行動学実験実習Ⅲ（心理学研究法）、行動生態学実験実習Ⅲ、行動生態学実験実習Ⅲ（心理学研究法、社会環境学実験実習Ⅲ、現代人間学実験実習Ⅲ、文化人類学実験実習Ⅲ、臨床教育学実験実習Ⅲ、				
学習目標G 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代における学問的・社会的要請に人間科学的な視座や方法論から真摯に応えようとする意欲を持っている。				○																
学習目標H 国際的に貢献できる素養の基礎となる外国語力を持つ。			○		マルチリンガル教育科目						人間科学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ									
学習目標Ⅰ 異なる文化を持つ他者とのコミュニケーションに意欲的にチャレンジする実践力を持っている。			○								高度国際性涵養教育科目									

教養教育系科目
専門教育系科目
国際性涵養教育系科目

HUMAN SCIENCES INTERNATIONAL UNDERGRADUATE DEGREE PROGRAM

Key Graduate Attributes

Graduates of Osaka University's Human Sciences International Undergraduate Degree Program should display the following attributes involving a range of skills, abilities, knowledge, and personal characteristics:

1 Academic and Critical Attributes

- Ability to engage in critical thinking (i.e., skills in reasoning, analysis, and evaluation);
- Ability to undertake self-directed and managed research and scholarship;
- Effective and persuasive written, oral, and visual communication;
- Ability to apply an interdisciplinary orientation to scholarship, research, and practical problem solving;
- Ability to utilize information technology effectively.

2 Communication Skills

- Ability to speak and present before diverse groups;
- Intercultural communication competence;
- Demonstrate commitment to further developing bilingual and/or multilingual interactional competence;
- Ability to confidently and effectively utilize a range of media and technology;
- Ability to effectively communicate to specialist and non-specialist audiences.

3 Teamwork and Leadership Attributes

- Ability to undertake effective teamwork and collaboration in a culturally diverse environment;
- Ability to recognize and draw from intercultural and international difference in working towards common objectives and goals;
- Ability to manage individual contribution to teams and to engage others in complex and demanding tasks;
- Social skills development;
- Ability to flexibly assume a variety of roles including leadership roles.

4 Personal Development

- Highly developed ethical and moral awareness of differing personal, social, and civic responsibilities in different communities;
- Commitment to ongoing personal and professional development;
- Interdisciplinary orientation in both scholarship and practical endeavors;
- Ability to work independently and in a self-directed manner;
- Ability to apply knowledge into practical outcomes.

5 Global Citizenship

- Ability to appreciate and adapt to different cultural environments;
- Awareness of the importance of human rights and dignity in a global context;
- Ability to reflect critically on local and global consequences of personal actions;
- Demonstrate an understanding of and commitment to issues of social justice;
- Appreciation of global interconnectedness and dependencies.

HUS Int'l Program Remote teaching guidelines (Core meeting 2020.8.28)

RECOMMENDATIONS for the AUTMUN SEMESTER 2020-21

These guidelines are intended to help you re-design your syllabus for remote teaching so that students' course workload meets MEXT requirements. They are also meant to help us respond to feedback from students at the end of the past semester, when they felt overwhelmed by the number of written assignments and from long hours of sedentary activity in front of a screen.

According to MEXT, a 2-credit course should consist of 90 academic hours. One academic hour is equivalent to 45 minutes, actual time. Therefore, actual time for a 2-credit course is 67.5 hours. In normal times, a course should include 15 weekly in-class meetings and 1 exam week per semester. Total in-class actual time is 22.5 hours (1.5 hrs x 15 weeks).
Preparation time for midterm exam, class presentation, final reports etc. should be deducted from the total actual time (67.5 hours). The remaining time is for a student's weekly preparation or homework.

Below is an estimate of the time required for a student for course preparation. For the calculation of estimated time see the Course Workload Estimator https://cat.wfu.edu/resources/tools/workload/.

Type of assignment	Preparation time required for an average student
Midterm exam	6 to 8 hours
Class presentation	6 to 8 hours
Final report/essay	10 hours
Reading assignment (20 pages)	1.5 hour
a 250-word reaction/reflection note	1.5 hour

Recommendations

1. Every professor should decide how to distribute the 67.5 hours within the 15 weeks bearing in mind that students have expressed a preference for a mix of Zoom sessions and content on demand.
2. Online session (Zoom) time should ideally be capped at 60 minutes. Time can be allocated as follows:
   a) up to a 45-minute lecture, followed by discussion and feedback, with 5 min. break in-between;
   b) a 30-minute lecture + discussion, and another 30-minute lecture + discussion, with a 5-minute break.
3. In weeks with online Zoom meetings we suggest assigning a reading not exceeding 20 pages.
4. In weeks with no Zoom meetings we can assign a reading up to 30 pages. For readings longer than 30 pages, we should clearly indicate which sections students must read (not exceeding 30 pages) and leave the remaining sections as optional.
5. Professors should provide a reading guide with 1-2 questions. The questions should be embedded in the reading and help students to identify the author(s)' argument and/or key concepts. The response to the reading guide does not necessarily have to be submitted or graded, depending on your grading scheme.
6. Reaction/Reflection/Short Writing papers can be assigned on weeks when there is no reading. These can be a reaction to a previous week's Zoom class, or previous readings. These should be 250 to 400 words. We recommend no more than 3 of these papers in the semester.
7. We should diversify the assignments to make it less monotonous and more interesting to complete. For example: consider a literature review, annotated bibliography, problem-

solving, simulation, debate, article analysis, op-ed, Wikipedia entry, discussion boards. We should calculate and decide how much time students should spend on the assignment.

8. Attendance: Every professor can decide whether to require attendance for Zoom meetings. However, if students are in a different time zone and attending class is difficult, we recommend giving them the option of watching a recording of the class on-demand.
9. Inform students that recorded Zoom sessions will not be distributed to anyone other than students enrolled in this course and only students enrolled in the course can have access to it on CLE. Data will be deleted at the end of the semester. This information can be included in the syllabus.
10. Professors should coordinate with others when setting deadlines for major assessments (final reports/essays) so that they do not overlap (see Philip's excel sheet).
11. If the same group of students has back-to-back classes, professors should coordinate on alternate weeks for Zoom meetings (check Philip's excel + verify with G30 office).
12. The syllabus outlining the course content for online learning needs to be revised and uploaded onto KOAN by the end of August. Detailed syllabi with assignment requirements, rubrics and readings should be made available to students and/or uploaded onto CLE at the beginning of the semester.
13. We recommend students to avoid taking more than 9 courses per semester, at least while we are teaching online. Based on MEXT criteria, the total number of hours per week a student needs for 9 courses is 40.5 hours.

Below are two examples of course structure

Example 1

Content	Frequency
Zoom sessions	1 per month (60 min.)
Content on demand	Short videos; professor's narrated ppt...
Readings	On average, 20~30pp weekly (alternating with reflection notes…)
Reflection note, critical reading notes etc.	Monthly (250-400 words)
Discussion board	1 per month
Exams	N/A
Reports	1 report
Group presentations	1 group presentation

Example 2

Content	Frequency
Zoom sessions	Fortnightly (60 min.)
Content on demand	Short videos; professor's narrated ppt...
Readings	On average, 20~30pp weekly (alternating with reflection notes…)
Reflection note, critical reading notes etc.	Monthly (250-400 words)
Discussion board	1 per month
Exams	1 or 2 exams
Reports	N/A
Group presentations	N/A

IRIS あいりす

Information Room for International Students

☆ Advice on daily life
☆ Study area
☆ Computers & Internet
☆ Lounge
☆ Tea & Coffee
☆ Magazines, newspapers and brochures In Japanese and English
☆ Notice board (information on used goods, language exchange, assistance etc.)
☆ Information on scholarships, career, part-time jobs, internship, studying abroad etc.
☆ Life and academic support
☆ Intercultural events

And lots more!!!

☆ 生活相談
☆ 学習スペース
☆ コンピューター＆インターネット
☆ 交流スペース
☆ 飲み物
☆ 日本語・英語の雑誌、新聞、情報誌
☆ 掲示板（語学交換、物品交換、ヘルプ等）
☆ 奨学金、就職、アルバイト、インターンシップ、留学情報など
☆ 生活・学習サポート
☆ 国際交流イベント

他にもたくさん！

CIEE HP ☆ (EN) ciee.osaka-u.ac.jp/en/ (JP) ciee.osaka-u.ac.jp

The above homepage has a lot of updated information on medical services, disaster prevention, career support and more, as well as exchange events and daily life supports by IRIS. Please check it by all means.

E-mail ☆ iris@ciee.osaka-u.ac.jp

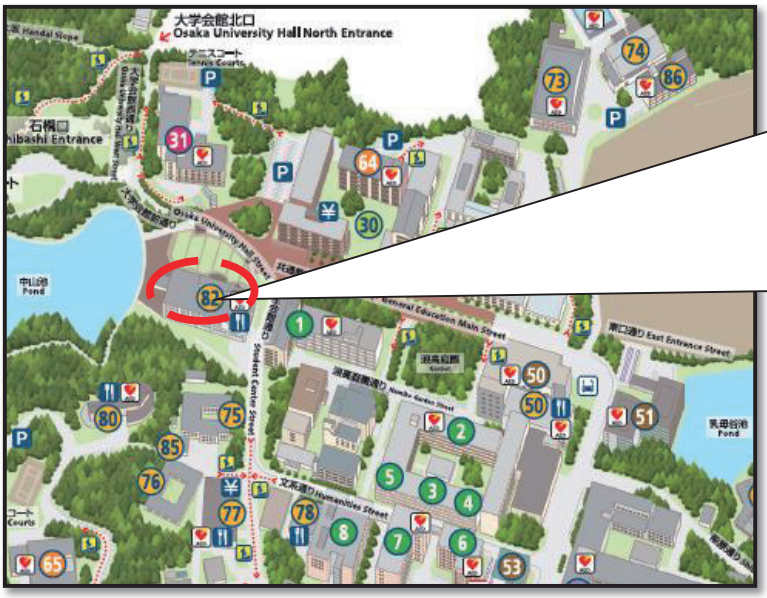
If you would like to get the IRIS letter (information for International Students), please send an e-mail!

IRIS（あいりす）

OPEN→8:30-18:00
Mon.-Fri.

2nd Floor, IC Hall, Suita Campus
吹田キャンパス　IC ホール 2 階

TEL: 06-6879-7076

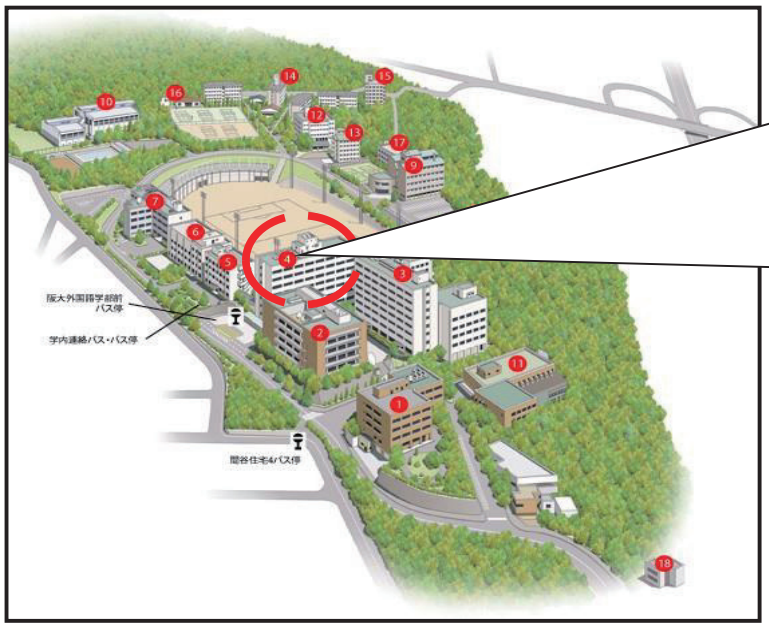


Toyonaka Branch

OPEN→10:30-17:00
Mon.-Fri.

2nd Floor, Student Service & Union Bldg.
Toyonaka Campus
豊中キャンパス 学生交流棟 2 階

TEL: 06-6850-5032



Minoh Branch

OPEN→10:30-17:00
Mon.-Fri.

1st Floor, B-building, Minoh Campus
箕面キャンパス　B 棟 1 階

TELI: 072-730-5020

IRIS Letter あいりす通信

【Request】IRIS Letter provides you with various information and announcements about upcoming events and activities. Currently, all enrolled students are sent to the e-mail address registered with KOAN, but please let us know the e-mail address you often use to IRIS.
Send us an E-mail with your 1) name, 2) faculty or course, 3) nationality.

【お願い】学内外の留学生関係のイベント情報やお知らせがメールで届く IRIS Letter は、現在、在籍学生全員に、KOAN 登録のメールアドレス宛に送っていますが、IRIS に、よく使うメールアドレスをぜひ知らせてください。
1) 名前、2) 学部（またはコース）、3) 国籍を以下のメールアドレスに送ってください。

IRIS【iris@ciee.osaka-u.ac.jp】

あいりすレター：IRIS Letter 2020 No.6 (2020.10)

Sample

＊ 今回の IRIS レター＊
1．2020 年度秋～冬学期　留学生対象日本語プログラム
2．学内バス運行のお知らせ
3．学生定期健康診断

＊Contents of this IRIS-letter＊
1. Japanese Language Program for International Students, 2020 Autumn-Winter
2. The schedule of inter-campus shuttle bus
3. Student medical checkups

::::: 1．2020 年度秋～冬学期　留学生対象日本語プログラム
日本語を学びたい留学生のために様々なプログラムを提供しています。
大阪大学の留学生なら誰でも受講できます。授業開始：10 月 8 日(木)、手続きはすべてウェブで行います。
履修登録締め切りは 10 月 22 日(木)13：00 です。
詳細は http://ciee.osaka-u.ac.jp/japanese_program/guidebook/

::::: 1. Language Program for International Students, 2020 Autumn-Winter
Osaka University offers a variety of courses for those who want to learn Japanese.
Anyone who is an international student of Osaka University can take courses in the program.
Registration is handled over the internet. Classes begin on October 8th (Thu.).
Class registration ends on October 22nd (Thu) at 13:00.
http://ciee.osaka-u.ac.jp/en/japanese_program/guidebook/

::::: 2. 学内バス運行のお知らせ
10 月 1 日(木)から学内バスが運行しています。時刻表は IRIS、または以下の URL で見ることができます。
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/bus.html

::::: 2. The schedule of inter-campus shuttle bus
School buses are in service from October 1st (Thu.). The schedule sheet is available at IRIS or at
http://www.osaka-u.ac.jp/en/access/bus.html

IRIS（吹田）及び CIEE 豊中分室、箕面分室では、留学生と日本人等一般学生の交流イベントを実施しています。

Ⅰ．不定期のイベント

① 10 月 30 日（金）スコーンクッキング（豊中 B.S.P.）

2020 年 10 月 30 日(金) 1 部 12:15～、2 部 13:30～
IRIS 豊中分室にて豊中 B.S.P.主催の「B.S.P-スコーン作り-」が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で留学生 9 名、日本人等一般学生 15 名が参加しました。作ったスコーンは持ち帰りました。

② 11 月 10 日（火）伝統遊び（吹田 B.S.P.）

2020 年 11 月 10 日（火）12：30～、IRIS にて吹田 B.S.P. 主催の「伝統あそび」が開催されました。
10 月に来日した新留学生 2 名を含む留学生 3 名及び日本人等一般学生 4 名が参加しました。留学生は、けん玉、あやとり、折り紙を日本人等一般学生から学び、和やかな雰囲気の中で、楽しいひと時を過ごしました。

③ 11 月 15 日（日）秋の遠足　服部緑地公園（箕面 B.S.P.）

2020 年 11 月 15 日（日）、吹田市の緑地公園内にて箕面 B.S.P.主催の One Day Trip が開催されました。
参加学生（留学生 8 名、日本人等一般学生 5 名）は全員、十分な感染予防対策をした上で、吹田市の服部緑地内にある“民家集落博物館”を見学しました。
その後、公園内で留学生と日本人等一般学生がゲームなどで交流を深めました。秋晴れの下、有意義な時間を過ごしました。

④ 11 月 26 日（木）OUISA HOUR（OUISA）

2020 年 11 月 26 日（木）12：00～、IRIS にて OUISA 主催の「OUISA Hour~TUNISIA~」がハイブリッド方式で開催されました。対面式で留学生 5 名日本人等一般学生 1 名、Online で留学生 1 名日本人等一般学生 1 名が参加しました。
博士後期課程留学生の CHAOUALI SALMA さんより、出身国 TUNISIA の歴史から日常生活まで多岐にわたる内容の説明がありました。

Ⅱ．定期的なイベント

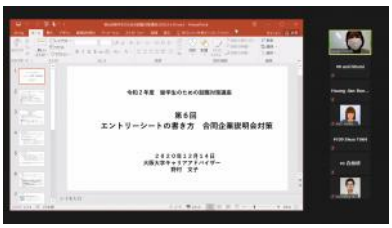
① 日本語カフェ・英語カフェ（オンライン／対面）(B.S.P.)

各キャンパスの B.S.P.が、日本語・英語カフェを Zoom や対面で開催しています。1 月の予定については、以下の B.S.P. Facebook をご確認ください。
（2 月、3 月は実施予定なし）
https://www.facebook.com/BSPOsakaUniversity

② Arabic Time (OUISA) ※隔週火曜日

2020 年 11 月 17 日（火）12：00～、IRIS にて OUISA 主催の「Arabic Time」が開催されました。留学生 6 名及び日本人等一般学生 1 名が参加しました。アラビア語圏の留学生 5 名が、非アラビア語圏の学生のレベルに合わせて、アラビア語会話を楽しみました。

③ 留学生のためのオンライン就職対策講座（国際教育交流センター）



10 月から 1 月まで、日本で就職を希望する留学生に対し、就職活動に役立つ全 8 回のセミナーをオンラインで実施しています。
12 月 14 日（月)に ZOOM にて開催された第 6 回セミナーでは、留学生 14 名が参加し、エントリーシートの書き方・合同企業説明会等対策について学びました。

※OUISA:大阪大学留学生会（Osaka University International Students Association）
※B.S.P.：Brothers and Sisters Program 留学生支援や交流活動を行う学生団体
国際教育交流センターIRIS(留学生交流情報室)は OUISA や B.S.P.の活動を支援しています。

今後のイベント予定

・12 月 23 日（水）OUISA Hour（ヨルダン）(OUISA)
・1 月 7 日（木）お正月遊び（吹田 B.S.P.）
・1 月 7 日（木）書き初め（箕面 B.S.P.）
・1 月 18 日（月）第 7 回キャリアセミナー（国際教育交流センター）
・1 月 25 日（月）第 8 回キャリアセミナー（国際教育交流センター）

令和２年度 留学生のためのオンライン就職対策講座

	月日	講義項目
	10月15日(木) 17:00－18:20	留学生のための就職活動セミナー(キャリアセンター主催) 【豊中】全学教育推進機構 大講義室
1	Oct. 21 (Wed)	Introduction to job search for international students (英語)
2	10月26日(月)	情報収集及び企業・業界研究(日本語)
3	11月5 日(木)	自己分析/キャリアデザイン(日本語)
4	11月27日(金)	内定者による体験談 (1) (日本語)
5	12月3日(木)	内定者による体験談 (2) (英語)
6	12月14日(月)	エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策(日本語)
7	1月18日(月)	面接試験の基礎とグループディスカッション選考対策 (日本語)
8	1月25日(月)	面接試験練習会(日本語)

豊中開催

オンライン開催

【17:30 – 19:00】

申込み career@ciee.osaka-u.ac.jp

1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍 を書いて申し込んでください。
2. 件名に「就職対策講座申し込み」と書いてください。

CIEE Center for International Education and Exchange

大阪大学キャリアセンター 公認

◆大阪大学留学生の卒業後の就職先：日立, 富士通, ダイキン, 日産自動車, ANA, ハウス食品, 日本IBM, JAL, アクセンチュア, 三菱電機, ゴールドマン・サックス, NTTコミュニケーションズ, ソニー, 竹中工務店, ダイワハウス, P&G, その他多数

主催: 大阪大学国際教育交流センター　共催: キャリアセンター　協力: 工学研究科国際交流推進センター

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？

2020年度 留学生のための就職相談コーナー

【お知らせ】対面の就職相談コーナーを9/1より再開します！

対面

豊中	毎週火曜日12:00 ～13:00	学生交流棟 2階 国際教育交流センター ミーティングルーム
箕面	毎週水曜日12:00 ～13:00	B棟１階 国際教育交流センター 箕面分室
吹田	毎週木曜日12:00 ～13:00	ICホール2階 講義室3

ZOOM 担当者と日程調整します。 **メール** いつでもメール可能

申込み career@ciee.osaka-u.ac.jp

- 1. 希望するメディア 対面 ZOOM メール ※対面の場合は希望日
  2. 氏名 3. 学部/学科 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。
- 件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。

大阪大学国際教育交流センター CIEE Center for International Education and Exchange

大阪大学国際教育交流センター コーディネーター 魚崎典子特任准教授

専門家にZoomでレポート・プレゼン相談！

日本語よろず相談窓口

期間：1月5日（火）～2月4日（木）

毎週火曜・木曜　13:00～13:30、14:40～15:10

内容：日本語のレポートや、発表資料などの日本語チェックを日本語の専門家に相談できます。作文、レポート、プレゼンスライド・原稿、卒業論文、修士論文等の日本語でお悩みの方はぜひご利用ください。

●セッションは１回30分、Zoomで行います。
●A4サイズ、5ページまでの文章が対象です。

お申し込み方法：希望セッションの2日前までに、OUマルチリンガルプラザHP上の方法に従い、ファイル添付の上お申し込みください。

お問い合わせ：plaza@lang.osaka-u.ac.jp

HPはこちら↓

OU Multilingual Plaza

大阪大学国際教育交流センター
CIEE Center for International Education and exchange
http://ciee.osaka-u.ac.jp/

全文　https://iss-intl.osaka-u.ac.jp/supportoffice/wp-content/uploads/2018/05/2b41277c862f77d6f8bd9042ab8801f7.pdf

Living in Osaka

Everyday Guide for International Students and Scholars

留学生・外国人研究者のためのリビングガイド

SUPPORT OFFICE @
OSAKA UNIVERSITY

Contents

Ⅰ. Osaka University ····· 6

1. For International Students and Scholars ·····6
   (1) Administrative Offices for International Students and Scholars
   (2) Advising Rooms for International Students
   (3) Center for International Education and Exchange
   (4) Other Information
2. Campus Information ····· 10
   (1) Student Centers
   (2) Libraries
   (3) Cybermedia Center
   (4) Health Care Center
   (5) Extra-curricular Activities
   (6) Dining Facilities, Shops, Post Offices and ATMs
3. Transportation around Osaka University ····· 16
   (1) Inter-Campus Shuttle Bus Service
   (2) Transportation Network around Osaka University
4. Japanese Language Programs for International Students, Scholars and their Families ····· 18
   (1) Center for International Education and Exchange (Suita Campus)
   (2) Center for Japanese Language and Culture (Minoh Campus)
5. Exchange Programs and other Support Systems ··· 18
   (1) B.S.P.
   (2) OUISA
   (3) OHP
   (4) Exchange programs with local elementary, junior high and high schools
   (5) Tutor Program
   (6) Financial Support

Ⅱ. Legal Procedures ····· 22

1. At the City Office ····· 22
   (1) Notification of place of residence
   (2) National Health Insurance (NHI)
2. At the Immigration Bureau ····· 28
   (1) Residence Card
   (2) Extension of Period of Stay
   (3) Change of Status of Residence
   (4) To invite family members to accompany you
   (5) Work Permit for Part-time Jobs
   (6) Re-entry Permit

Ⅲ. Medical Services and Insurances ··· 40

1. Osaka University Health Care Center····· 40
2. Medical Assistance····· 40
   (1) Hospitals
   (2) Medical Consultation in Various Languages
   (3) Medical Institutions for Emergencies at Night and on Holidays
3. Insurance ····· 42
   (1) National Health Insurance (NHI)
   (2) Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research
   (3) Student Mutual Benefit (KYOSAI)
   (4) Personal Liability Insurance for students (GAKUBAI)

Ⅳ. Housing ····· 44

1. Osaka University Dormitories ····· 44
2. Other Dormitories (Operated by Support Organizations) ····· 44
3. Applying for Dormitories ····· 46
4. Other Housing Information ····· 48
   (1) Room Search Housing Request
   (2) Private Housing
5. Comprehensive Renters' Insurance for Foreign Students Studying in Japan ····· 50
6. Osaka University Guarantor System for Foreign Student Rental Housing ····· 50
7. Osaka Prefecture's Standard Form of Lease Agreement ····· 50
8. Relocation····· 52

Ⅴ. Daily Life ····· 54

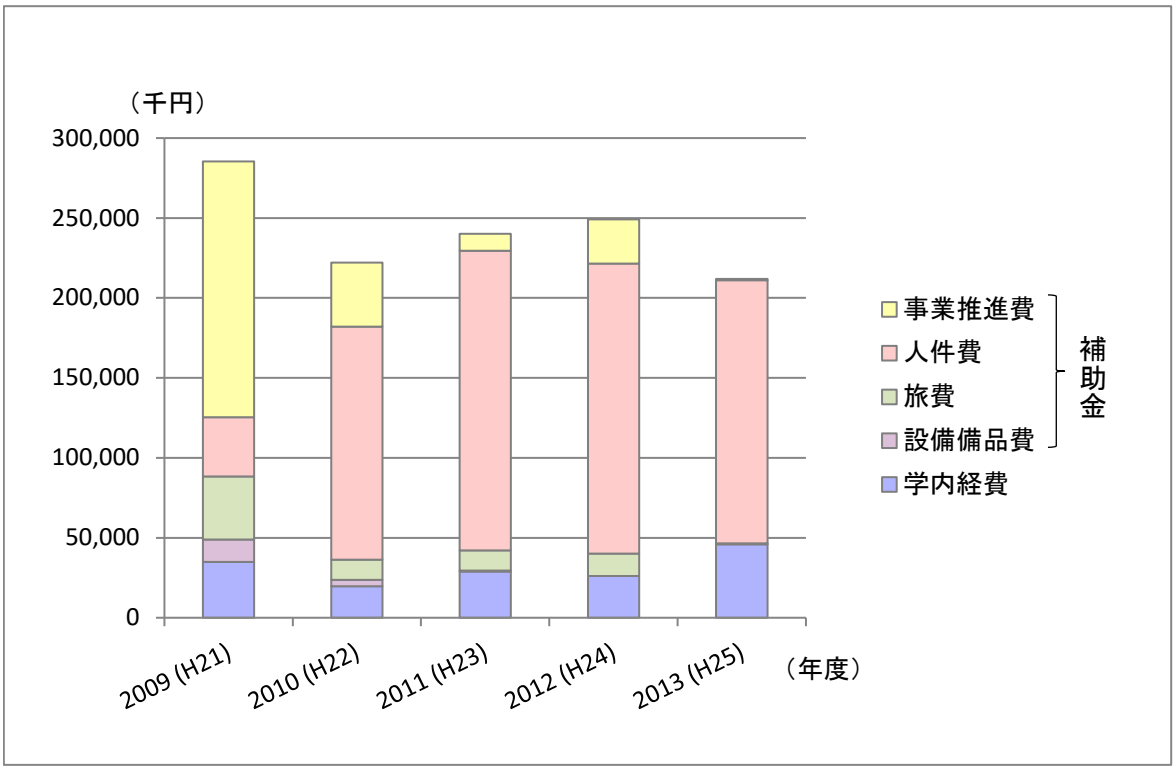
1. Calendar ····· 54
2. Banks····· 54
3. Utilities (Electricity, Gas, Water) ····· 56
4. Telephones, Internet ····· 56
5. Postal and Home Delivery Services ····· 58
6. Transportation ····· 60
   (1) Trains, Subways, Monorails and Buses
   (2) Taxis
   (3) Airlines
7. Driver's License, Automobiles, Motorcycles and Bicycles····· 64
8. Shopping ····· 66
9. Money ····· 66
10. Newspapers, TV and Radio····· 66
11. Noise Caution ····· 68
12. Kitchen ····· 68
13. Trash ····· 70
14. Emergencies ····· 70
15. Other Information (for your reference) ····· 72

Ⅵ. Procedures before Leaving Japan ··· 78

参考資料⑪

文部科学省からの補助金及び学内経費の推移

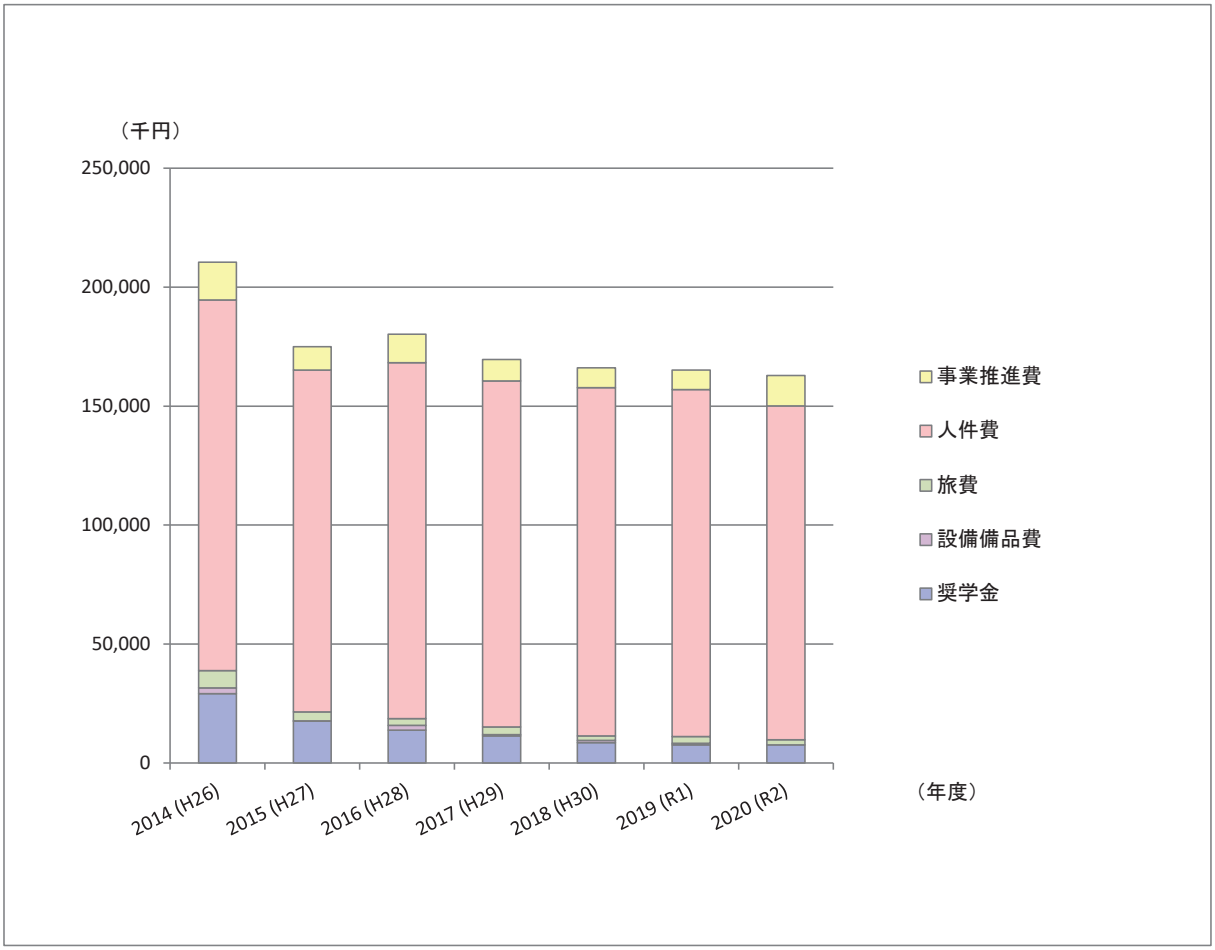
年度		2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
補助金		250,343,000	202,500,000	211,216,000	223,133,000	165,950,000
内訳	事業推進費	159,971,245	40,163,267	10,733,250	27,790,353	839,796
	人件費	36,933,072	145,625,247	187,319,448	181,253,606	164,431,524
	旅費	39,420,911	12,613,746	12,651,903	14,089,041	678,680
	設備備品費	14,017,772	4,097,740	511,399	0	0
学内経費		35,000,000	19,676,000	29,000,000	26,091,914	45,897,607



学内経費の推移

年度		2014（H26）	2015（H27）	2016（H28）	2017（H29）	2018（H30）	2019（R1）	2020（R2）
総長裁量経費		210,430,000	174,951,000	180,160,000	169,636,226	166,051,987	165,132,361	162,907,000
	事業推進費	15,759,000	9,772,000	11,878,000	9,117,143	8,351,156	8,185,881	12,828,000
	人件費	155,828,000	143,640,000	149,610,000	145,429,108	146,284,510	145,839,950	140,329,000
	旅費	7,253,000	3,861,000	2,873,000	3,232,543	1,980,236	2,808,006	2,070,000
	設備備品費	2,390,000	154,000	1,959,000	417,432	876,085	618,524	0
	奨学金	29,200,000	17,524,000	13,840,000	11,440,000	8,560,000	7,680,000	7,680,000

*2014～2016年度については、千円未満切り上げ　　*2020年度については、執行額ではなく配分額



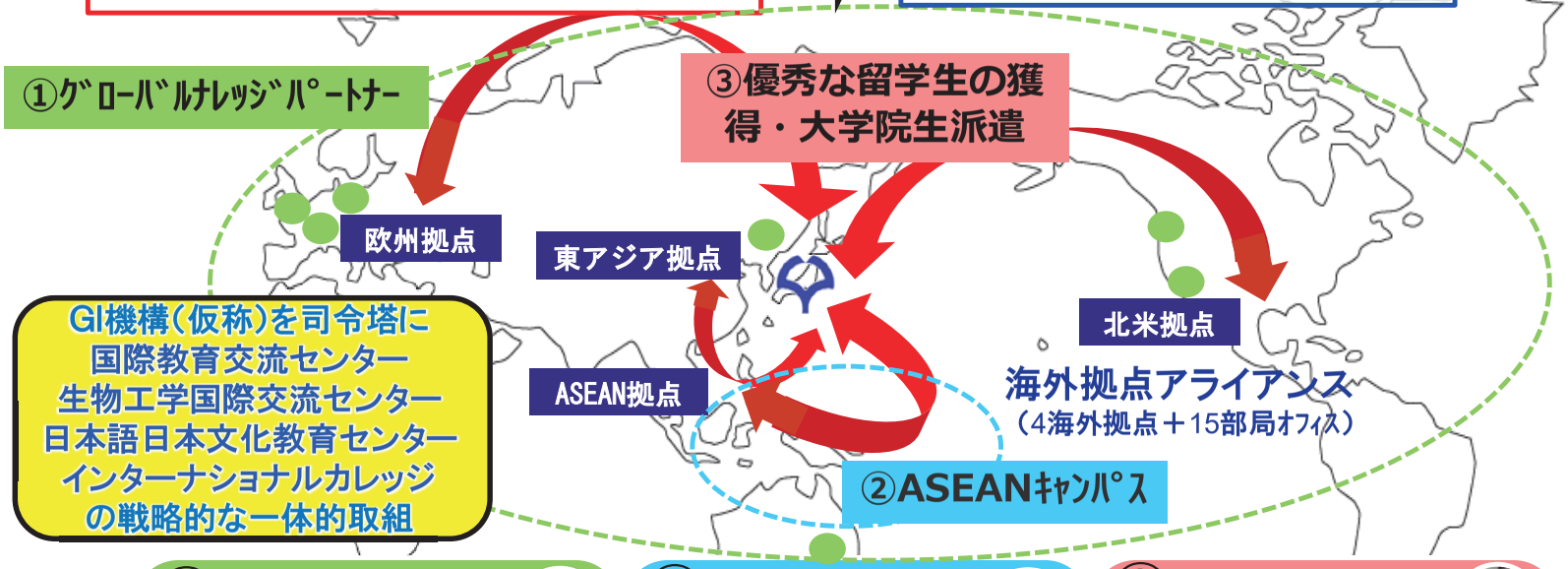
大阪大学の戦略的グローバル展開

参考資料⑬－1

世界トップレベル研究拠点の形成
グローバル・地域的社会課題への取組み
優秀な研究人材の獲得

⇒

研究開発エコシステムの基盤構築



GI機構（仮称）を司令塔に
国際教育交流センター
生物工学国際交流センター
日本語日本文化教育センター
インターナショナルカレッジ
の戦略的な一体的取組

3大ミッション

①

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾅﾚｯｼﾞﾊﾟｰﾄﾅｰ

GKP包括連携　7大学程度
GKP特定分野連携　13大学程度

世界トップ大学との連携による最先端研究の推進，グローバルな社会課題の解決

②

ASEANｷｬﾝﾊﾟｽ

タイ・インドネシア・ブルネイ・インドネシアでDDPと短プロ展開

地域的な連携による研究推進と人材育成，地域社会が抱える社会課題の解決

③

優秀な留学生の戦略的獲得

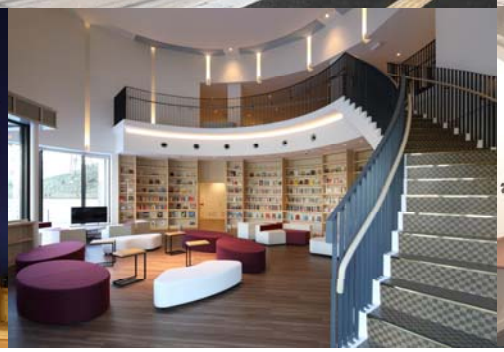
特に博士人材の育成に注力
大学院生派遣の増加

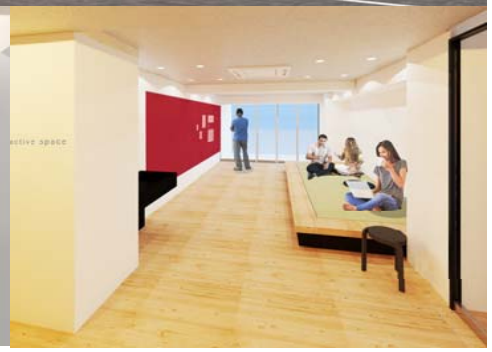
①②を含む戦略的グローバル展開により，優秀な留学生の獲得，大学院生の海外派遣を推進し，研究力強化へ貢献

グローバルイニシアティブ（GI）機構（仮称）を司令塔に横断的な連携

グローバルビレッジ

参考資料⑬－2





グローバルビレッジ津雲台（2020年10月供用開始）
- 留学生寮225戸・日本人学生寮75戸、教職員宿舎400戸

グローバルビレッジ箕面船場
- 留学生寮200戸・日本人学生寮120戸

OUグローバルキャンパス（箕面新キャンパス）

グローバル30とは？

グローバル30とは、文部科学省事業「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」を指し、このサイトはグローバル30に採択された13大学によるさまざまな取組を紹介するウェブサイトです。

グローバル30に採択された13大学においては、留学生等に魅力的な教育を提供し、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる人材の養成を図るため、海外の学生が我が国に留学しやすい環境を提供することを目指してさまざまな取組を行っています。

グローバル30広報資料を作成しました。

- **国際化拠点整備事業（22年度の取組）**
- **国際化拠点整備事業（23年度の取組）**
- **国際化拠点整備事業（24年度の取組）**
- **英語版：国際化拠点整備事業（22年度の取組）**
- **英語版：国際化拠点整備事業（23年度の取組）**
- **志願者向けパンフレットはこちらから（英語版のみ）**

1. 国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）とは？

2020年を目処に30万人の留学生の受入れを目指す「留学生30万人計画」が2008年7月29日に策定されました。

「留学生30万人計画」骨子（PDF）

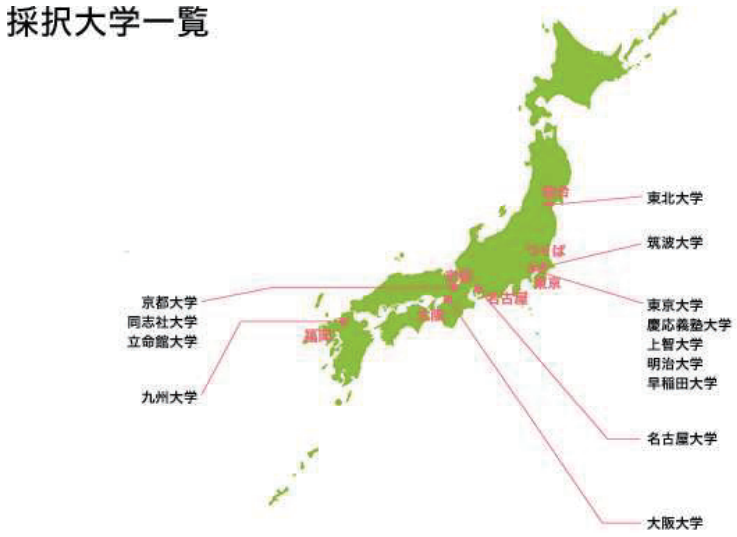
グローバル30（「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」）は、この計画の達成を目指し、留学生受入体制の整備をはじめとする大学の国際化へ向けた取組を実施し、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成することを目的としています。
そのため、「英語による授業等の実施体制の構築」「留学生受入れに関する体制の整備」「戦略的な国際連携の推進」など、日本を代表する国際化の拠点としての総合的な体制整備を図ることに加え、「産業界との連携」「拠点大学間のネットワーク化の推進、資源や成果の共有」など、広く我が国の国際化推進を目指した取組も行っています。

2. 日本の大学の国際化を推進する13大学

グローバル30（「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」）に採択された大学は以下の13大学です。

東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶應義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学

採択理由については日本学術振興会のウェブサイトをご覧ください。



3. 採択大学での取組

グローバル30採択大学では、次のような取組を行い、留学生にとって魅力ある教育研究環境を提供しています。 そして、優秀な外国人学生や外国人教員の受入れを拡大することにより、日本の大学の国際化を推進し、日本のみならず、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を図ることとしています。

（1）英語による授業のみで学位が取得できるコースの大幅な増設

採択13大学においては、英語による授業のみで学位が取得できるコースとして、平成21年より、学部33コース、大学院124コースを開設しました。 平成21年以前から開設していたコースも合わせると、現在13大学において英語による授業のみで学位が取得できるコース数は、およそ300コースとなっています。

（2）留学生受入体制の充実

専門スタッフによる学習や学内外での様々な手続のサポート、日本語・日本文化に関する学習の機会の提供、インターンシッププログラムによる日本企業での就業体験の場の提供など、留学生受入体制の充実に努めています。
また、グローバル30採択13大学、およびその他の国際化に積極的な大学の職員を対象とした実務研修を実施し、海外の機関と交渉するための高度な語学能力、国際会議開催の実務、英語による会議議事の進め方、英文による契約書の作成等、職員の能力向上にも努めています。
その他にも、各大学が協働し、効率的に事業を推進するため、学内文書英文化担当者による会合や、学部入試担当者による会合を開催し、その成果を共有するとともに、グローバル30採択13大学だけでなく、その他の国際化に積極的な大学にもその効果を波及させていくよう取り組んでいます。

（3）戦略的な国際連携の推進

1採択大学につき2カ国以上の海外事務所を設置し、海外の入学希望者が現地で入学審査を受けられる体制を整備するとともに、大学が利用できる拠点としての役割を担うことで、学生・研究者の交流を支援します。

（4）日本留学説明会の開催

海外から優秀な人材を日本の大学に集め、日本人学生と切磋琢磨することをとおして、留学生および日本人学生の資質をさらに高める環境を整えるため、世界中からより多くの優秀な留学生を誘致する必要があります。このため、グローバル30採択13大学では、海外の優秀な高校生・大学生に対象を絞った日本留学説明会を共同で開催しています。説明会では、ブースでの個別対応だけでなく、各大学の教員による英語での模擬講義を行う等、日本の大学の研究・教育の質の高さを参加した高校生・大学生に直接伝えています。

（5）産業界との連携

■産業界との連携－1

産業界との連携を深め、高度外国人人材の活用と課題の展望について検討するため、平成22年8月2日に（社）日本経済団体連合会（以下経団連）の協力を得て「第1回グローバル30産学連携フォーラム」を開催しました。「社会のグローバル化と国際人材の育成に向けて」をテーマにパネルディスカッションなどを行い、約400名が集まりました。
平成23年度においても、経団連との共催でグローバル人材育成、大学の国際化、留学生受入の推進に関わる諸問題などを検討するため、8月3日に「第2回グローバル30産学連携フォーラム」を開催しました。産業界、大学等から412名が参加しました。事前の勉強会を経て開催した二つの分科会（テーマ：「留学経験のある日本人の雇用について（幹事校：明治大学）」「留学生の雇用について（幹事校：立命館大学）」）においては、昨年以上に活発な意見の交換が参加者とパネリストの間で行われました。
平成24年度においても、同様に9月19日に「第3回グローバル30産学連携フォーラム」を開催しました。
「大学の国際化とグローバル人材育成のための取組について」をテーマに早稲田大学・京都大学を幹事校に、各大学の国際化の取組における課題・諸問題の検討を行いました。当日は、大学をはじめ、企業、外国公館・関係機関、マスメディア、省庁関係者など合計325人の参加がありました。

■産業界との連携－2

経団連によるグローバル人材育成・促進のための海外派遣奨学金、「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」を創設し、平成24年度は採択13大学の35名が受給しました。また、平成24年8月4日に開催した、経団連による留学帰国生向けの合同就職説明会である「経団連グローバルキャリア・ミーティング」の実施に協力し、280人の来場者に恵まれ、会場は熱気に包まれました。

（6）震災への対応

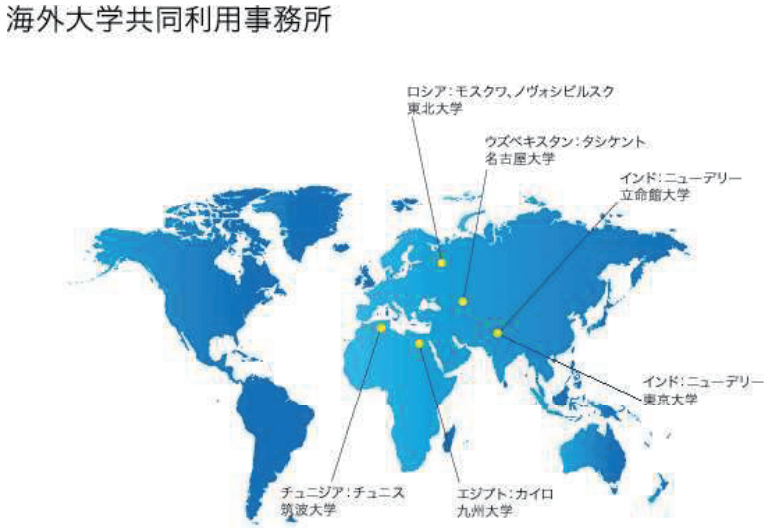
グローバル30採択13大学では、東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により、留学生が来日をキャンセルする、または延期する等の問題が生じていることを受け、外国人留学生呼び戻しのための施策・震災への対応を行いました。

4. 日本留学の窓口となる「海外大学共同利用事務所」を整備しています

現在、5カ国5都市に、日本留学の窓口となる「海外大学共同利用事務所」を設置し、日本の大学全体の情報の提供や入学説明会の開催、入学審査など、現地での活動を支援するサービスを提供しておりますので、積極的にご活用ください。

「海外大学共同利用事務所」の詳細はこちら

チュニジア（チュニス）【筑波大学】、エジプト（カイロ）【九州大学】、ロシア（モスクワ）【東北大学】、インド（ニューデリー）【立命館大学】、インド（ニューデリー）【東京大学】、ウズベキスタン（タシケント）【名古屋大学】
※【　】内は、事務所の運営大学。



「留学生３０万人計画」骨子

平成20年7月29日
文部科学省
外　務　省
法　務　省
厚生労働省
経済産業省
国土交通省

趣　旨

①　日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。その際、高度人材受入れとも連携させながら、国・地域・分野などに留意しつつ、優秀な留学生を戦略的に獲得していく。また、引き続き、アジアをはじめとした諸外国に対する知的国際貢献等を果たすことにも努めていく。

②　このため、我が国への留学についての関心を呼び起こす動機づけから、入試・入学・入国の入り口から大学等や社会での受入れ、就職など卒業・修了後の進路に至るまで、体系的に以下の方策を実施し、関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進する。

方　策

１．日本留学への誘い
～日本留学の動機づけとワンストップサービスの展開～

我が国の文化の発信や日本語教育の拡大により、日本ファンを増やして我が国及び大学等への関心を呼び起こし、留学希望に結びつける。また、ウェッブなどを通じ留学希望者に対し各大学等の情報を発信する。海外においては、在外公館や独立行政法人の海外事務所、大学等の海外拠点が連携して日本留学に係る各種情報提供、相談サービスを実施し、留学希望者のためのワンストップサービスの展開を目指す。

①　積極的に日本の文化、社会、高等教育に関し情報発信し、イメージ戦略としての日本のナショナル・ブランドを確立。
②　海外の大学等と連携して効率的に日本語教育拠点を増加させることにより、海外における日本語教育を積極的に推進。
③　各大学等の留学情報発信や、日本留学フェア等多様な方法による留学情報の提供の取組を推進。
④　在外公館、独立行政法人の海外事務所、大学等の海外拠点が連携して、海外において、日本留学に係る各種情報を提供。また、留学希望者への相談サービスを提供する機能を強化し、留学希望者のためのワンストップ(一元的窓口)サービスの展開を目指す。
⑤　ビジット・ジャパン・キャンペーンとの連携による情報発信の強化。

２．入試・入学・入国の入り口の改善　～日本留学の円滑化～

必要な留学情報の入手から入学許可、宿舎などの決定まで母国で可能とする体制を整備する。また、入国が円滑にできるよう、留学生の質にも留意しつつ入国審査等を見直す。

① ウェッブ等を通じ、入試など留学に関わる大学等の情報発信機能の強化。

② 日本留学試験の改善や、日本語能力試験、TOEFL、IELTS などの既存の試験を活用した渡日前入学許可を推進。また、宿舎や奨学金採用など安心して留学するための受入れまでの手続きの渡日前の決定を促進。

③ 海外において留学生を積極的に獲得するための大学等の海外拠点の展開と、大学等同士の共同・連携の推進。

④ 大学等の在籍管理の徹底と入国時や入国後の在留期間の更新申請等に係る審査の簡素化や審査期間の短縮。

３．大学等のグローバル化の推進　～魅力ある大学づくり～

留学生を引きつける魅力ある大学づくりとして、英語のみによって学位取得が可能となるなど大学等のグローバル化と大学等の受入れ体制の整備について支援を重点化して推進する。

① 国際化の拠点となる大学を30選定し重点的育成。

② 国際化拠点大学やCOEでは原則英語のみによる学位取得を可とするなど、英語のみによるコースを大幅に増加し、国際的な教育研究拠点づくりを推進。

③ 交換留学、単位互換、ダブルディグリーなど国際的な大学間の共同・連携や短期留学、サマースクールなどの交流促進、学生の流動性向上、カリキュラムの質的保証などにより大学等の魅力を国際的に向上。

④ 専門科目での外国人教員の採用を増やし、教育研究水準を向上。

⑤ 留学生の受入れや日本人学生の海外留学の推進を図るため、大学等における9月入学を促進。

⑥ 留学生受入れのための大学等の専門的な組織体制を強化し、組織的な受入れを充実。

⑦ 国費留学生等の優先配置、財政支援の傾斜配分、競争的資金やGPによる支援などにより、グローバル化を積極的に進める大学等への支援を重点化。

４．受入れ環境づくり　～安心して勉学に専念できる環境への取組～

宿舎確保の取組など留学生が安心して勉学に専念できる受入れ環境づくりを推進する。また、地域や企業等が一体となった交流支援を促進する。

① 大学等が各関係機関と連携し、短期留学を含め渡日後１年以内の留学生に宿舎を提供できるよう、大学の宿舎整備、民間宿舎確保の円滑化、公的宿舎の効率的活用等の多様な方策を推進。

② 国費外国人留学生制度、私費留学生学習奨励費については、その改善を図りつつ活用。

③ 地域・企業等のコンソーシアムによる交流を支援することや、関係者が一堂に会する場として、全国レベルの交流推進会議を創設。

④ 留学生が留学後困らないよう、日本語教育機関・大学等の日本語教育担当部署をはじめとした国内の日本語教育の充実。

⑤ カウンセリングなど留学生や家族への生活支援の取組を促進。

５．卒業・修了後の社会の受入れの推進　～社会のグローバル化～

卒業生が日本社会に定着し活躍するために、大学等はもとより産学官が連携した就職支援や受入れ、在留期間の見直しなど社会全体での受入れを推進する。

① 大学等の専門的な組織の設置などを通じた留学生の就職支援の取組の強化。

② インターンシップ、ジョブカードの活用、就職相談窓口拡充など産学官が連携した就職支援や起業支援の充実。

③ 企業側の意識改革や受入れ体制の整備を促進。

④ 就労可能な職種の明示等在留資格の明確化や取扱いの弾力化、就職活動のための在留期間の延長の検討。

⑤ 帰国留学生の同窓会の組織化支援、活動支援など帰国後の元日本留学生のフォローアップの充実を図り、元日本留学生に日本の理解者・支援者として活躍してもらうための人的ネットワークの維持・強化。

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業　事後評価結果

大 学 名	大阪大学

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

（総括評価） A	目的は概ね実現された。

（コメント）

拠点大学の国際化については、得意とする研究分野を中心として、部局による国際化計画が大学全体の戦略として明確にされている。また、総長・大学本部のイニシアティブを増す組織改革が行われ、優秀な外国人教員等の招へいに当たり、人事・給与システムの柔軟化を図るなどの工夫がされている。更に、教員の資質向上のための「教育の質保証」ハンドブックは、国際化推進の具体的試みとして評価できるとともに、外国語能力の高い職員の積極的な採用や、外部評価によって国際化の進捗状況をチェックする取組等、国際化への努力は高く評価できる。

英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設され、コースに在籍する留学生に対する生活に必要な日本語教育への配慮もされている。一方で、大学院のコースについては、他の採択大学に比べて在籍者数が少なく、また、日本人学生に開かれてはいるものの、日本人学生の在籍者がいないなど、今後の改善が望まれる。

留学生受入のための環境整備については、海外拠点の設置を概ね計画どおり進めるとともに、受入重点国からの優秀な学生を確保するために、日本留学フェアへの参加や現地高校訪問等も積極的に行っている。

目標の達成状況については、留学生数及び留学生比率の両方とも目標を大幅に上回るなど良好な達成状況である。また、海外有力大学との連携プログラムについては、各地域の大学との新たな連携が進み、カップリング・インターンシップなど独創的な取組について更なる拡大が期待できる。一方で、外国人教員数及び外国人教員比率は目標を下回っており、平成３２年度末の目標達成に向けた努力を期待する。なお、日本人教員の海外派遣については、全学の状況を的確に把握するとともに、今後の更なる努力が望まれる。

今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、留学生受入の拡大に加え、継続を前提とした今後の方針が明確に述べられているため、今後の国際化への貢献が期待できる。

大　　学　　名	大阪大学

[構想の概要](組み立て直し後修正変更版)

1)英語による授業のみで学位を取得できるコースの設置

①**人間科学コース**を人間科学部に設置する(学士号授与:定員10名)。本コースは激変する現代社会および世界に貢献できる人材養成を目指すもので、人間と社会に関する諸科学の幅広い知識を習得できるカリキュラムを提供し、**実践的な問題解決力を備えた高度教養人の育成**に取り組む。

②**化学・生物学複合メジャーコース**を理・工・基礎工学部共同で設置する(学士号授与:定員20名)。本コースは**化学と生物の融合分野で国際的に活躍できる人材養成**を目指す。

③**国際物理特別コース**を大学院理学研究科に設置する(定員10名)。本コースは特殊装置を駆使する**大規模科学研究者が中心**となり、国際共同研究や**国際共同利用施設にて指導力を発揮しながら活躍できる人材養成**を目指す。

④**統合理学特別コース**を大学院理学研究科に設置する(定員10名)。本コースは広い学問的視野を持ち、**化学と生物の融合分野において国際的にトップレベルで活躍できる人材養成**を目指す。

いずれのコースにおいても日本語・日本文化教育を実施するとともに、日本における就職機会向上を図る。各コース全科目の詳しいシラバスを用意し、授業内容の透明化を図る。欧州ECTSの考え方に則り、学生の学修過程を厳格に管理し、それに基づく成績管理・評価、修了判定を行う。また、研究活動を通して優秀な外国人教員を多数雇用し、新規英語コースの授業を日本人教員と連携して担当させる。

「大阪大学インターナショナルカレッジ」を創設し、コース関連教員を構成員とするカレッジ会議を編成するとともにアドミッション・学生管理・教務を専任で行う教職員を配置し、英語コース開設のノウハウの開発と効率的運営に取り組む。将来、新たな英語コースの追加を展望し、それに効率的に対応できる体制を創出する。

英語コースで提供する科目は、広く学内の**日本人学生の受講**を可能にするよう努め、また提携する**他大学との間で相互に開放**するよう検討を進める。

2)留学生受入のための環境整備

①**「国際教育交流センター」の設置**

国際教育交流に関する研究を併せて行う「国際教育交流センター」において、チーム制を導入し、調査・企画、**短期プログラム開発**研究、**日本語教育**研究、**交流アドバイジング**研究それぞれのチームを設け連携を図る。留学生増加に対応できるよう日本語教育、交流・生活指導、アドバイスを行う等の活動強化とともに、**全学的短期受入・派遣プログラムの企画**ならびに**部局プログラムの企画・推進・支援**に重点的に取り組み、**全学で毎年数十名以上の受入増**を図れるよう新規プログラムの開発を目指す。

②**「サポートオフィス」を拡充・強化**:既設のサポートオフィスに教員を配置し、留学生の飛躍的増加に対応するため、**ビザ取得支援、宿舎の斡旋、留学生のケア、キャリア形成(就職)支援等の拡充・強化**に取り組む。

③**上海教育研究センターの新設**

既設のサンフランシスコ教育研究センター、グローニンゲン教育研究センター、バンコク教育研究センター、ならびに平成22年2月をめどに設置予定の上海教育研究センターにより、周辺地域を含んだ留学生リクルート活動を推進する。英語コースの学生だけでなく、短期留学等大阪大学が提供するあらゆる外国人学生対象教育プログラムのプロモーションを行う。

3)近隣大学との連携ネットワーク形成による大学国際化の加速的推進

近隣の**ネットワーク形成推進事業採択大学(京都大学、同志社大学、立命館大学)**間の連携を強化するための組織、ならびに**採択大学以外の近隣の大学(神戸大学、関西大学、関西学院大学)**との間に新たな連携ネットワークをそれぞれ創設し、学生交流に関する情報共有や海外拠点におけるシンポジウムおよび留学フェア共催などの共同事業を行う。それによって、相互に国際化を推進する枠組を創出すると同時に、助成金の効率的な運用を図る。

4)経済・産業界との連携によるグローバル人材育成の推進

経済・産業界諸団体との連携を強化し、それにより産業界側のニーズを踏まえながら授業の実施や講師招へいを通じて、グローバル人材(日本人学生、留学生)の育成を図る。また、国内外の学生のキャリア形成支援に役立てる。併せて、民間シンクタンク「アジア太平洋研究所」との留学生支援に関する連携の検討を行う。

5)達成目標

①英語コース、②短期受入プログラムによる留学生受入に加え、③海外におけるリクルート活動および学内の国際化推進活動へ積極的に取り組むことにより既存カリキュラムへの学部正規留学生の増加を全学で毎年10名見込む。④グローバルCOEプログラム等の国際拠点活動とも強力に連携し、特に学部短期留学生受入プログラムの魅力度を高めることにより、同プログラム参加者の3%が再度大阪大学の大学院に入学することを見込む。以上により、平成20年度に1,385名であった留学生数を、平成22年度末で約1,500名、平成25年度末で約2,000名、平成32年度末で3,000名を達成することを目標とする。また、外国人教員に関しては本事業による新規雇用を含め平成32年度で7%を目標とする。

⑤近隣大学との連携を通じて、本事業により蓄積した国際化資源を共有し、他の大学への波及効果を高める。⑥経済・産業界諸団体と具体的な連携活動を通じて、留学生はもとより日本人学生のキャリア形成に役立て、企業と学生のマッチングを実現する。

6)国際化拠点の運営体制

総長を議長とし、部局長等で構成する「グローバル30推進協議会」が本事業の最高責任をもち、その下で国際交流担当理事(本事業構想責任者)を長とする「グローバル30企画調整委員会」の指示下で「グローバル30企画室」が実務的な作業を推進する。留学生受入で世界的に実績のある海外の大学の外国人外部委員を含む評価委員会を設置し、取組の進展状況についての評価・助言を得る。

［取組実績の概要］

・拠点大学の国際化

平成21年の本事業の採択を受け、直ちに英語コースの設置準備を開始し、10月には学内に、総長を議長としすべての理事および部局長により構成する推進協議会等を立ち上げ、全学的な推進体制を構築した。当初予定どおり滞りなく、1)英語による授業のみで学位を取得する4コースの設置、2)国際教育交流センターやサポートオフィスをはじめとする留学生受入のための環境整備、3)近隣大学と連携する「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」(阪神ネット)等の形成による大学国際化の加速的推進、4)経済・産業界との連携によるグローバル人材育成の推進を実施し、本学の国際化の深化を実現した。また、本事業期間中に受けた中間評価や外部評価での指摘を活かして、G30科目の開放をはじめとする日本人学生との交流も拡大した。さらに学生へのインセンティブとして、「海外研修プログラム単位化ガイドライン」により、海外大学と連携した海外研修の単位化を実施したほか、総長のリーダーシップにより、大阪大学未来戦略の一環として留学生の受入、学生の海外留学のための支援を大幅に拡充した。

事務体制については、従来から職員の海外派遣や語学研修等を実施し国際化に努めてきたが、とりわけ、平成23年度からは本学独自の職員採用試験により多様な人材確保に努め、国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を備えた職員を多数採用している。

これらの取組の成果として、本事業期間中に留学生の受入数と学生の海外留学数は大幅に増加した。また、本学では、「大阪大学の国際戦略」(平成17年)を定め、国際化を明確に位置付けてきたところ、本事業への採択を契機として大学全体の機運が高まり、平成24年には、「**大阪大学未来戦略(2012－2015)―22世紀に輝く―**」を策定した。未来戦略8箇条では、教育・研究の国際化を強力に進めるとともに、グローバルキャンパスの実現に向けて全学を挙げて取り組むこととした。現在も引き続き、柔軟な人事制度の導入による国際共同研究の奨励等、教育研究における多様な国際化施策を実施している。さらに、本学の原点である「適塾」の精神を受け継ぎ、22世紀においてひときわ輝くGLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」の実現を宣言した。

・英語による授業のみで学位が取得できるコース

本事業を契機に、新たに英語による授業のみで学位が取得できるコースとして、①**人間科学コース(学部)**、②**化学・生物学複合メジャーコース(学部)**、③**国際物理特別コース(大学院)**、④**統合理学特別コース(大学院)**、を立ち上げた。学部2コースは、平成22年8月に設置したインターナショナルカレッジ(教育担当理事・副学長をカレッジ長とし、アドミッション・学生管理・教務を専任で行う教職員を配置)において、運営を支援した。平成26年5月現在、学部2コースに78名、大学院2コースに58名と、合計136名が在籍している。

英語コース設置のために、国際的な教育研究活動実績を有する教員の雇用に留意した結果、新任外国人教員15名はアジア、オセアニア、ヨーロッパの10か国に及ぶ多彩な陣容となった。また、「教育の質保証」ハンドブックの作成、世界的に定評のある教科書の選定やカリキュラム上の工夫等とともに、FDや学生アンケートを実施し、教育の質保証に留意した。

・留学生受入のための環境整備

本事業採択に伴い、旧留学生センターを改組して①「国際教育交流センター」を設置、②「サポートオフィス」を拡充・強化した。国際教育交流センターでは、短期プログラム開発研究チーム、日本語教育研究チーム、交流アドバイジング研究チームとサポートオフィスが一体となり、留学生受入や学生派遣の業務を行う機動的な体制を構築した。サポートオフィスは、留学生と外国人研究者やその家族の受入に伴うビザ申請、住居斡旋等に係るワンストップサービスを実施し、説明会等の定例開催に加え、各部局のフロントスタッフと連携した情報交換等を行っている。また、留学生を対象とした就職対策講座や就職相談も実施した。

従来の海外3拠点(サンフランシスコ、グローニンゲン、バンコク)に加え、平成22年に③「上海教育研究センター」を設置した。これら海外拠点のネットワークを活かし、留学フェア等による留学生のリクルート活動をはじめとし、渡日前アドミッションへの支援体制の整備に努めた。

・目標の達成状況

留学生の受入については、①本事業による英語コースの新規開設、②短期プログラムの活用、③海外におけるリクルート活動、④国際拠点活動との連携を実施するとともに、総長裁量経費による支援の拡充やサポートオフィスによるワンストップサービスの支援を充実させた。

結果、平成21年5月に1,455名であった留学生数は、平成25年5月に1,985名となり、本事業終了時の平成25年度通年では2,816名に上った。外国人教員数は平成25年度末には129名、外国人研究員を含めると300名となり、平成21年度末の250名より2割増加した。また、学生の海外留学についても、学術交流協定に基づく交換留学等の派遣者数は、平成21年度の274名から平成25年度には513名に増加し、交換留学プログラム等以外の海外留学を含む全体の派遣学生数は、平成25年度末で1,322名となった。

なお、本事業の波及例として、⑤近隣大学と「阪神ネット」を結成し、合同留学フェア、ワークショップや交流会、⑥経済界・産業界の「グローバル人材活用運営協議会」と協力し、留学生のキャリアのための交流会等を開催し、連携を深めた。

以上、本学の国際化は、本事業の採択を機に加速的に進捗している。